

**県民モニター臨時アンケート調査結果**  
**－今般のコロナ禍の影響と今後の展望－**

**2020年9月**

**兵庫県**

# 目次

I	結果要旨	2
1	調査概要	2
2	結果概要	3
II	調査結果	5
	対象者及び回答者の属性	5
	各設問の結果	6
	問1 生活への影響	6
	1-1 あなたの日常生活	6
	1-2 あなたとあなたの家族の関係	12
	1-3 あなたのお勤め先、自営業の状況	18
	1-4 あなたの日々の働き方	24
	1-5 あなたの時間の過ごし方	30
	1-6 その他	36
	問2 社会のあり方	39
	問3 その他考えたこと、感じたこと	51
	(参考) 調査票	54

# I 結果要旨

兵庫県では「ポストコロナ社会」のあり方を考える基礎資料とするため、県民モニターを対象に、一般のコロナ禍の影響と今後の展望について、自由記述を中心とする臨時アンケート調査を実施した。

## 1 調査概要

- 1 調査対象：県民モニター 2,130 人
- 2 調査期間：令和2年6月9日（火）～6月22日（月）
- 3 調査方法：県ホームページ上のアンケートフォームに入力
- 4 回答者数：1,250人（回答率 58.7%）  
※回答者の属性（性別、年代別、職業別、地域別）は県民モニター登録情報より識別
- 5 調査項目：「生活への影響（問1）」「社会のあり方（問2）」「自由記述（問3）」の3問で構成

**問1** 今回の事態は、あなたの生活にどの程度変化を与えたか。また、どのような変化があったか。

- 1-1 あなたの日常生活（買い物、子どもの世話、通院など）
- 1-2 あなたとあなたの家族の関係
- 1-3 あなたのお勤め先、自営業の状況
- 1-4 あなたの日々の働き方
- 1-5 あなたの時間の過ごし方（お仕事以外の活動、余暇等）
- 1-6 その他

○上記の1-6を除く5項目について、それぞれ変化の大きさを以下の5択から一つ選択

- ①マイナスに大きく変化した
- ②マイナスに少し変化した
- ③ほとんど変化しなかった
- ④プラスに少し変化した
- ⑤プラスに大きく変化した

○上記の6項目について、それぞれ変化の具体的な状況を自由記述（300字以内）

**問2-1** 今回の事態を受けて、社会のあり方は変わるべきだと思うか。

○以下の4択から一つ選択

- ①大いに変わるべき
- ②多少は変わるべき
- ③どちらともいえない
- ④特に変わる必要はない

**問2-2** 社会のあり方として、特に変わる必要があると思うものは何か。

○何について（項目名：10字以内）、どのような方向に変わるべきか（具体的な方向性：300字以内）を3項目まで自由記述

**問3** その他、このコロナ危機の中で考えたこと、感じたことを自由記述（300字以内）

## 2 結果概要

自由記述を中心とした調査に対し、県民モニター1,250人から多くの意見が寄せられた。今回の事態が県民生活に与えた影響を今後の県政に生かすため、テキストマイニングの手法も活用し、膨大な意見の中から浮かび上がってくる課題や今後の方向性を考察する形で調査結果を取りまとめた。

### 問1 生活への影響

<ポイント>

- ✓ 外出を伴う活動が難しくなった結果、県全域において県民生活に大きなマイナス変化があった。
- ✓ 家族との関係では、離れて暮らす家族との関係にマイナスの影響が及んだが、同居する家族とは一緒に過ごす時間や会話などふれあう時間が増えた。
- ✓ 仕事の関係では、多くの業種で減収になった一方、ITや食品関連など一部業種で需要が拡大した。また、初めてテレワークを経験した人から「生活の質が向上した」と前向きな評価が聞かれた。
- ✓ 旅行や趣味の活動が難しくなった一方で、自宅で読書や片付けを行うほか、オンライン会議ツールを活用して家族や友人とコミュニケーションを取るようになったとの声もあった。思いがけず生じた空き時間を有意義に活用しようと模索した様子が浮かび上がってくる。

<設問別のポイント>

#### 1-1 あなたの日常生活（買い物、子どもの世話、通院など）

- ・「マイナスに変化」が圧倒的に多い（72.5%）。「プラスに変化」は7.8%、「変化なし」は19.7%。
- ・地域によって差があり、「マイナス変化」が神戸、阪神等の都市部で多く、地方部で少ない傾向。
- ・多くの県民が不便な生活を強いられたが、自分の生活を見直す機会にもなった様子が窺われる。

#### 1-2 あなたとあなたの家族の関係

- ・「マイナスに変化」が多い（52.8%）が、「変化なし」も多い（35.8%）。「プラスに変化」は11.4%。
- ・年代によって差があり、子世帯と離れて暮らす高齢者の影響で「マイナス変化」が年齢と共に上昇。
- ・離れて暮らす家族と会えない辛さがあった一方、同居する家族との絆が深まった様子が窺われる。

#### 1-3 あなたのお勤め先、自営業の状況 ※企業等勤務と自営業等の710名が回答

- ・「マイナスに変化」が多い（61.4%）が、「変化なし」も多い（32.8%）。「プラスに変化」は5.8%。
- ・職業によって差があり、「マイナス変化」は自営業で多く、公務員で少ない。
- ・多くの業種で減収になったが、情報通信や食品関連など需要が増加した業種も一定存在。

#### 1-4 あなたの日々の働き方 ※企業等勤務と自営業等の766名が回答

- ・「マイナスに変化」が多い（48.2%）が、「変化なし」も多い（38.8%）。「プラスに変化」は13.0%。
- ・職業によって差があり、「マイナス変化」が多いのは自営業。「プラス変化」が多いのは会社員。
- ・テレワークを経験した人からの前向きな評価が際立つ。働き方を見直す契機になったことは確か。

#### 1-5 あなたの時間の過ごし方（お仕事以外の活動、余暇等）

- ・「マイナスに変化」が多い（62.0%）。「プラスに変化」は17.4%。「変化なし」は20.6%。
- ・性別で差があり、「プラス変化」は女性が多い。
- ・外出抑制のストレスの大きさが窺われる一方、自宅で有意義に時間を過ごした人も相当数存在。

#### 1-6 その他

- ・感染防止対策を行いつつ、新しい生活様式を模索する動きが広がったことが窺われる。

## 問2 社会のあり方

<社会のあり方は変わるべきか（4択）>

✓ 今回の事態を受けて「社会は変わるべき」と回答者の約9割が回答

- ・女性の方が「変わるべき」との思いが強い。特に「働き方」の変革を求める人が多い。
- ・年代別では若い世代ほど「大いに変わるべき」との回答が多い傾向。
- ・全職種で「変わるべき」が多数。「公務員」や「会社経営・役員」は慎重姿勢。
- ・地域別では「変わるべき」の回答が都市的地域で多く、多自然地域で少ない傾向。

<特に変わる必要があると思うものは何か（自由記述）>

- ✓ 意見数が多かった上位10項目は、多い順に「働き方」「感染症対策」「政治・行政」「教育」「生活様式」「医療体制」「人口集中」「産業構造」「価値観」「通信環境」である。
- ✓ 「働き方」では、テレワークなど新しい働き方への変化を求める声が多数を占めた。特に、住む場所の自由度を高め、暮らしの幅を広げる働き方として、テレワークへの期待が高まっている。
- ✓ 「感染症対策」では、ワクチンの早期開発やPCR検査体制の拡充を求める声が多かった。また、活動自粛のマイナス面にもっと配慮すべきだったとの声もあった。
- ✓ 「政治・行政」では、行政の対策の分かりにくさやIT化の遅れに対する批判が多数あった。県に対しては、全県一律の対応への疑問や、首長のリーダーシップに期待する声が多く寄せられた。
- ✓ 「教育」では、学校教育のオンライン化を求める声が多かったが、一方で、教育格差の助長要因になり得るとの指摘もあった。9月入学を改めて真剣に検討すべきとの声もあった。
- ✓ 「生活様式」では、仕事中心のライフスタイルを見直すきっかけになったとの声が多く聞かれた。
- ✓ 「医療体制」では、本当に必要な人に対応するために無駄な医療を減らす必要があるとの声が多かった。また、病院に行かずに医療を受けられる環境の整備を求める声も多かった。
- ✓ 「人口集中」では、都市から地方への人口分散をこの機に進めるべきとの意見が多く聞かれたが、実効性のある施策なしでは分散は進まないといった意見も見られた。

## 問3 その他考えたこと、感じたこと

<ポイント>

- ✓ 元通りの生活を目指すのではなく新しいライフスタイルを模索すべき、今回の経験を未来の子どもたちのための糧としたい、といった未来志向の意見が寄せられた。
- ✓ あふれる情報の中で何を信じてよいのか戸惑い、正しい情報を見極める力の大切さを感じたなど、情報リテラシーを身につけることの重要性を指摘する声も多かった。
- ✓ 県に対しては、テレビで効果的に情報発信できるよう、報道の専門官を置くべきとの声も聞かれた。
- ✓ 感染者への誹謗中傷や医療従事者への差別など、社会の不寛容が目についたとの声も多かった。

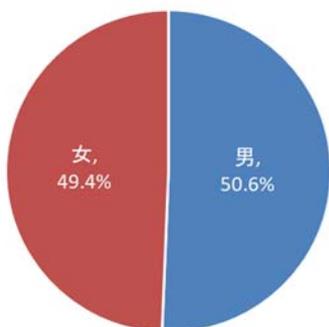
(参考) テキストマイニングについて

- ・自由記述で得られた計約30万5千字を分析するため、大量の文字データから有用な情報を取り出す「テキストマイニング」の手法を活用。具体的には、樋口耕一立命館大学准教授が開発したソフト「KH Coder」を用いて、各問の頻出語句の抽出と、頻出語句のグルーピング（関係性の見える化）を行った。

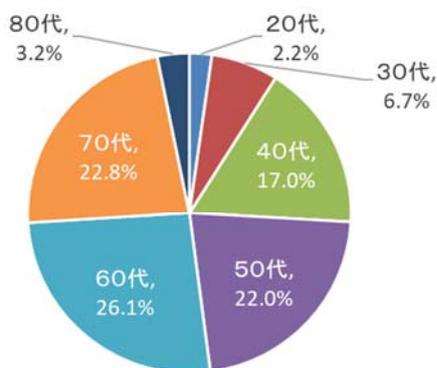
【問合せ先】企画県民部ビジョン局ビジョン課 078-362-3072

## II 調査結果

### <対象者及び回答者の属性>

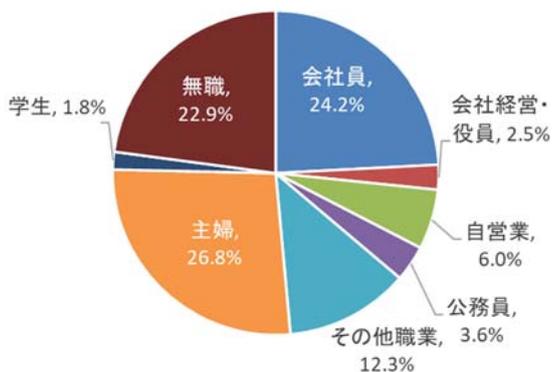


	対象者数	回答者数	回答率	回答属性別比率	
総数	2,130	1,250	58.7%		
性別	男	1,006	633	62.9%	50.6%
	女	1,124	617	54.9%	49.4%



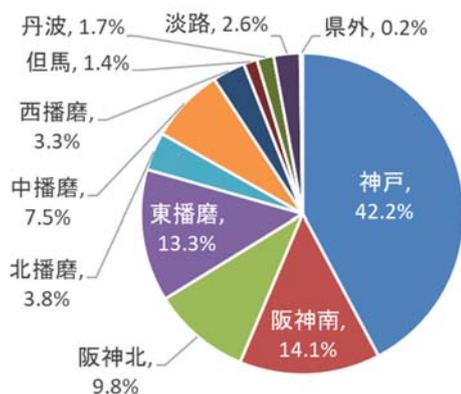
	対象者数	回答者数	回答率	回答属性別比率	
総数	2,130	1,250	58.7%		
年代別	10代	1	0	0.0%	0.0%
	20代	71	28	39.4%	2.2%
	30代	213	84	39.4%	6.7%
	40代	388	212	54.6%	17.0%
	50代	462	275	59.5%	22.0%
	60代	453	326	72.0%	26.1%
	70代	457	285	62.4%	22.8%
	80代	85	40	47.1%	3.2%

※「対象者」の80代には80代以上を含むが、実際に回答があったのは80代のみ。



	対象者数	回答者数	回答率	回答属性別比率	
総数	2,130	1,250	58.7%		
職業別	会社員	570	302	53.0%	24.2%
	会社経営・役員	57	31	54.4%	2.5%
	自営業	124	75	60.5%	6.0%
	公務員	81	45	55.6%	3.6%
	その他職業	268	154	57.5%	12.3%
	主婦	557	335	60.1%	26.8%
	学生	55	22	40.0%	1.8%
	無職	418	286	68.4%	22.9%

※「その他職業」はアルバイト等を指す。



	対象者数	回答者数	回答率	回答属性別比率	
総数	2,130	1,250	58.7%		
地域別	神戸	843	528	62.6%	42.2%
	阪神南	284	176	62.0%	14.1%
	阪神北	233	123	52.8%	9.8%
	東播磨	288	166	57.6%	13.3%
	北播磨	94	48	51.1%	3.8%
	中播磨	160	94	58.8%	7.5%
	西播磨	82	41	50.0%	3.3%
	但馬	38	17	44.7%	1.4%
	丹波	43	21	48.8%	1.7%
	淡路	59	33	55.9%	2.6%
	県外	6	3	50.0%	0.2%

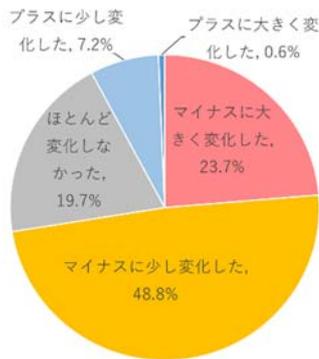
## 問1 生活への影響

### 1-1 あなたの日常生活（買い物、子どもの世話、通院など）

#### (1) 全体

～外出制限で不便な生活を強いられる一方、家庭や地域との関係、自分の生活を見直す機会に～

- ・約7割（72.5%）がマイナスに変化と回答し、1割弱（7.8%）がプラスに変化と回答。
- ・ボランティアなど外に出て活発に交流を行っている人の多くから、生活の質が下がったという声が寄せられた一方、オンラインのコミュニケーションを評価する声もあった。
- ・子どもの教育に関する意見が多く、休校措置の影響の大きさが窺われる。「不登校などで学校に通えない子どもの気持ちを分かってもらうきっかけになったのでは」という声もあった。
- ・家庭で子どもと過ごす時間が増えた、地域住民同士の交流が進んだとの声もあった。
- ・子連れで買い物をすると周りの冷たい視線を感じたなど社会の息苦しさを指摘する声もあった。
- ・テレワークを歓迎する声が多かったが、職場へ出勤した人に過大な負担がかかったとの声も聞かれた。テレワークの適切な運用にはなお課題も多いと推察される。

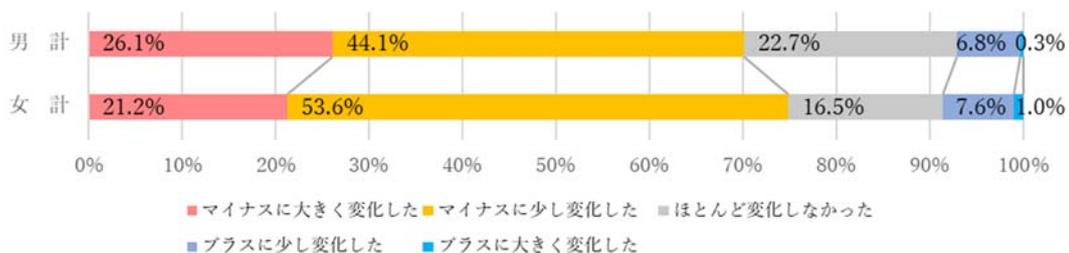


選択肢	回答者数	構成比
マイナスに大きく変化した	296	23.7%
マイナスに少し変化した	610	48.8%
ほとんど変化しなかった	246	19.7%
プラスに少し変化した	90	7.2%
プラスに大きく変化した	8	0.6%
	1,250	

#### (2) 男女別

～男女ともマイナス評価が多数だが、女性の方がマイナス評価・プラス評価とも男性より多い～

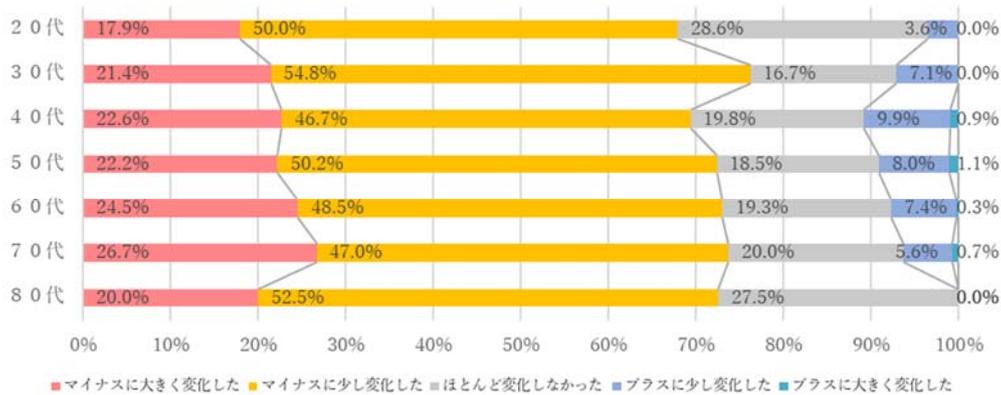
- ・男性は「外出」、女性は「買い物」「子ども」に関する回答が多かった。
- ・特徴的な回答は、外出ができなかった（40代男性）、ボランティアに行けなくなった（60代男性）、時間に余裕ができて運動をして健康的になった（50代男性）、買い物の時間が減った（50代女性）、子連れで買い物にいけない（30代女性）、子どもと過ごす時間が増えた（40代女性）などである。



### (3) 年代別

～全世代でマイナス評価が多数（約7割）、プラス評価が比較的多いのは40代・50代～

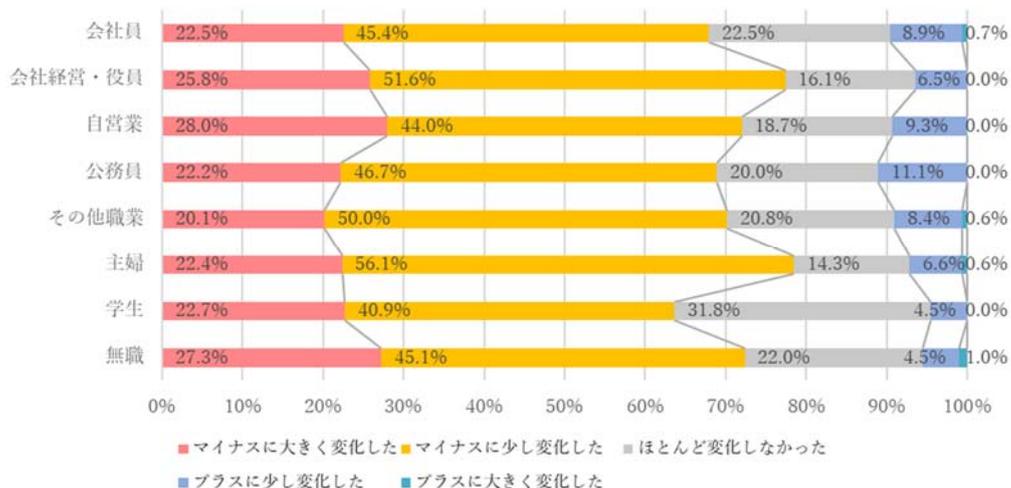
- ・20代は「自粛」「ストレス」、30代・40代は「子ども」、50代は「仕事」、60代・70代は「外出」「買い物」、80代は「外出」に関する回答が多かった。
- ・特徴的な回答は、自粛で行動が制限された（20代女性）、子どもと向き合う時間ができた（30代女性）、子どもと公園で遊ぶことが増え、近隣の住民と親しくなった（40代女性）、リモートで仕事を行う環境が整った（50代男性）、外出・通院が困難になった（60代男性）、外出を自粛した（70代）、マスクの着用が面倒だ（80代男性）などである。



### (4) 職業別

～全職種でマイナス評価が多数、特に会社経営・役員、主婦でマイナス評価が多い～

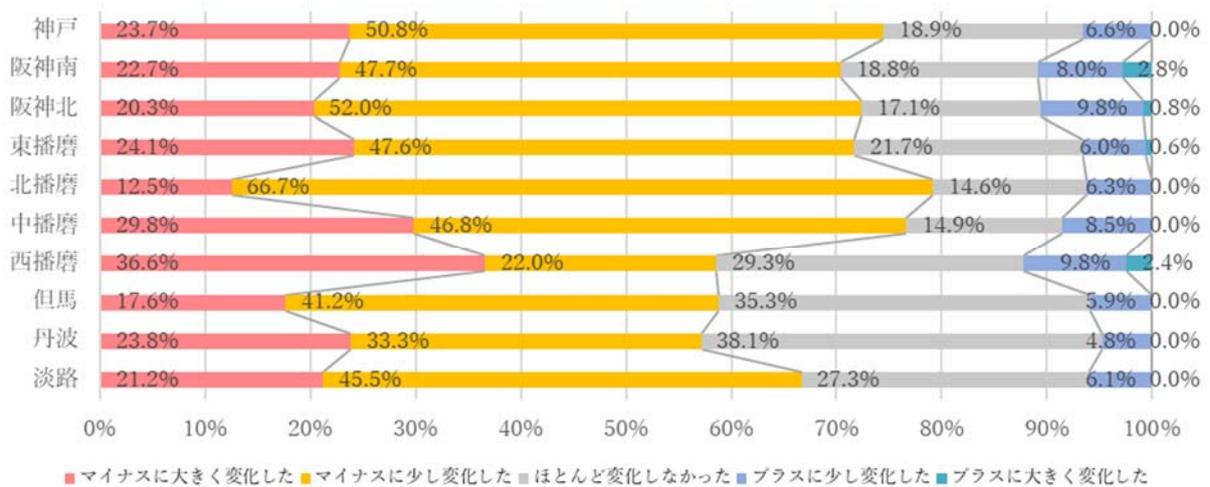
- ・会社員、会社経営・役員は「外出」、自営業は「仕事」、公務員とその他職業は「買い物」、主婦は「買い物」「子ども」、学生は「ストレス」、無職は「生活」に関する回答が多かった。
- ・特徴的な回答は、外出が大幅減（会社員：50代男性）、自転車移動で健康的に（会社員：60代男性）、外出自粛で運動不足（会社経営：70代男性）、休業せざるを得なかった（自営業：50代女性）、家で過ごす時間が増え、掃除ができた（自営業：60代男性）、買い物など生活全てに影響（公務員：50代男性）、買い物ができず不便（その他職業：60代女性）、1日中子どもと家に閉じこもり病みそうだった（主婦：40代女性）、家族の昼食の用意が負担（主婦：50代女性）、外出できずストレスが溜まる（学生：20代女性）、外出減少で生活の質が低下（無職：40代男性）などである。



(5) 地域別<sup>1</sup>

～マイナス評価が都市部で多く、地方部で少ない傾向～

- ・神戸、阪神など都市部でマイナスへの変化が大きく、但馬、丹波など地方部でマイナスの影響が少ない傾向が窺われる。新型コロナウイルス感染者が多数発生している都市部に比べ、地方部では感染者がほぼ発生していなかったため、日常生活への影響に差が出たと考えられる。
- ・神戸、阪神南、阪神北、東播磨、中播磨では「買い物」「外出」「生活」、北播磨、西播磨では「外出」、但馬、淡路では「子ども」、丹波では「自粛」に関する回答が多かった。
- ・特徴的な回答は、買い物ができなくなった（神戸：60代男性）、日常生活が不便に（阪神南：40代女性）、買い物を控え定期検診も行けない（阪神北：50代女性）、電話で診察してもらえたのが助かった（阪神北：70代男性）、外出できずストレスがたまった（東播磨：50代女性）、妊婦健診など必要最低限の外出しかなかった（北播磨：20代女性）、休校で子どもの生活リズムが乱れた（中播磨：50代男性）、催事や集会が減り自分の生活が取り戻せた（西播磨：70代男性）、子どもの学校や習い事が休止になった（但馬：40代男性）、自粛で自由に出かけられない（丹波：70代男性）、学校や習い事に行けず子どもがストレスを感じていた（淡路：30代女性）などである。



<sup>1</sup> 「県外」の回答はサンプル数が3と少ないため省略

(6) 主な回答と頻出語句

〈主な回答〉

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 買い物を控え宅配や出前に変えた。外食もやめ惣菜の購入に変えた</li> <li>・ 買い物に行けないのに宅配商品も欠品や遅延で必要な物が届かず不安</li> <li>・ 外に食事に行く回数が大幅に減った</li> <li>・ 阪神・淡路大震災を経験したのでいつ災害があってもいいように食品等の備蓄はしていた</li> <li>・ 子どもたちを買い物に連れていくと他人の冷たい視線でいたたまれなかった</li> <li>・ コロナが怖く病院への通院が後回しに</li> <li>・ 買い物に行っても、最小限人数を守らず大勢で来ている人がおり不安になった</li> <li>・ PCを使い慣れているつもりでもテレビ通話などに不自由さを感じた。もっと IT の普及が重要</li> <li>・ 外出自粛で娘家族、孫に会えない</li> <li>・ マスク不足で困った</li> <li>・ 趣味のテニスなどが中止。外出できず気が重い</li> <li>・ オンライン授業の用意で仕事量が多く大変</li> <li>・ リモート勤務できない職種のため、出勤者を減らした影響で普段の何倍もの仕事が発生</li> <li>・ テレワークだが子どもに構ってあげられず、放置状態</li> <li>・ テレワークで主人が自宅にいたので 3 食作るのが面倒</li> <li>・ 休校解除の目処が立たず離職。母子家庭で身内の援助もなく失業保険も少額。子どもは親が家にいるので嬉しそうだが働かないと食べていけない</li> <li>・ 親の介護のため他府県へ行く必要があったが、車のナンバーを見て嫌がらせをされた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 在宅勤務や休暇が増え家族との時間が増えた</li> <li>・ 子どもが近所の子どもと出会う機会が増え、親同士の仲も深まった。今回の事態がなければこのようなことはなかっただろう</li> <li>・ 不登校や病気などで学校に通えない子どものことを考えると、この事態は公教育のあり方を考えるよいきっかけ。学校行事や地域での支え合いなどもオンラインを使いながらいろいろな方法を試してみるいい機会だ</li> <li>・ 子どもが以前からこもりがちだったためリモートが普通になって過ごしやすくなった。外に出たくても出られない人の気持ちも少しはわかってもらえたかなと思う</li> <li>・ 子どもと運動や工作などの遊びをたくさん一緒にする事ができた。久しぶりに子どもと長く向き合う時間ができた</li> <li>・ 集会などが減り自分の生活が取り戻せた</li> <li>・ 片付けや資料整理、読書がゆっくりできた</li> <li>・ 散歩など夫婦での行動が増えたほか、オンライン会議など新しい経験があった</li> <li>・ オンライン診療が助かった</li> <li>・ 会議がオンラインで済み遠方へ出かける必要がなくなり、ストレスが減った</li> <li>・ 人混みに行くと疲れやすいが、人が減って静かになり、通勤等の外出が楽になった</li> <li>・ 一人で過ごす時間が増え自分自身の生活を見直す良い機会となり、併せて家族と過ごす時間が増えたことで安らぎの時を過ごせた</li> <li>・ ほぼ毎日子どもを連れて公園に行き近所の人や同じような家族と親しくなった</li> </ul>
--	--

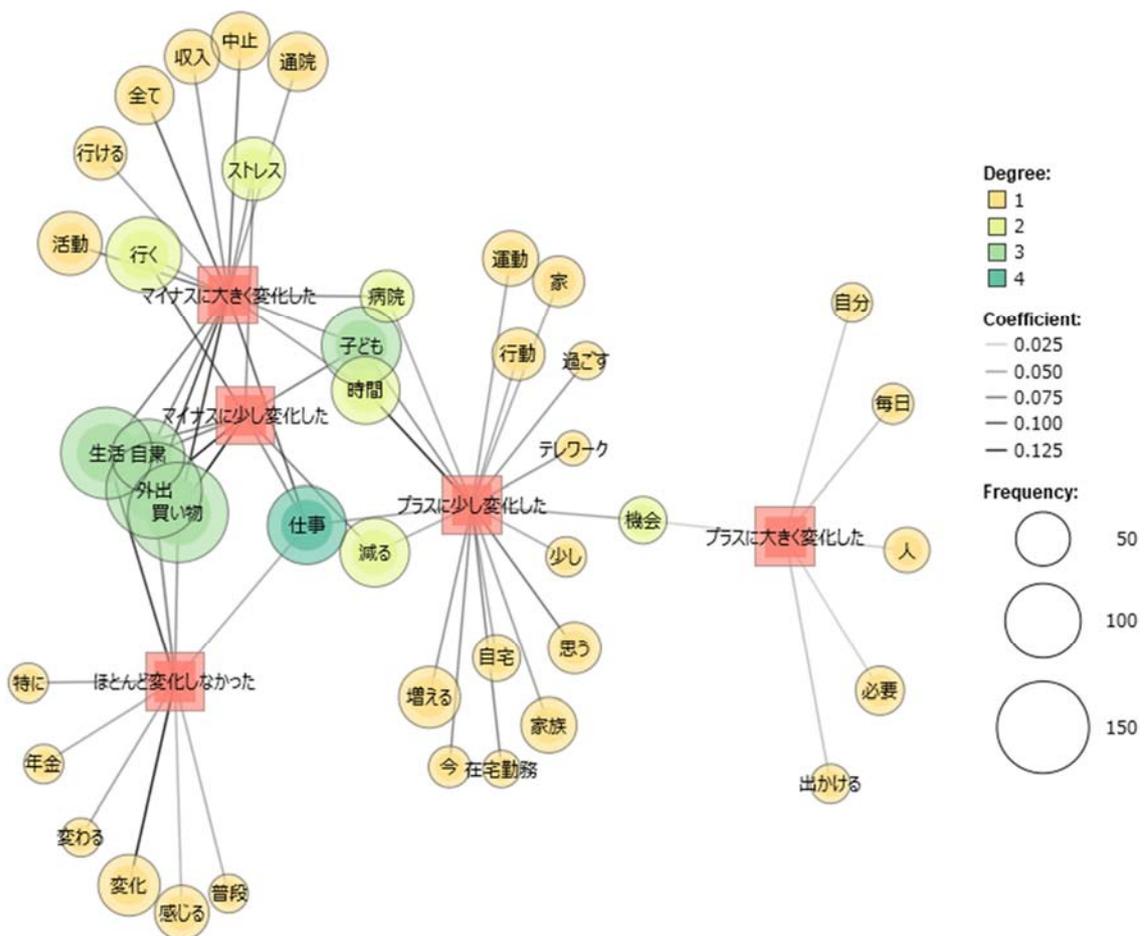
〈主な頻出語句〉

順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数
1	買い物	179	6	行く	101
2	外出	163	7	自粛	93
3	生活	149	8	減る	84
4	子ども	111	9	時間	81
5	仕事	109	10	活動	71



### 【プラス・マイナス評価と頻出語句の関連】

- ・回答別に分類すると、「マイナスへ変化」を選択した人は「外出」「自粛」「買い物」「ストレス」との関連が強い。外出自粛の掛け声の中で、日々の買い物すら控える動きがあったことは事実である。気軽に外出できなくなったことがストレスとなって、マイナスへの変化として表れていると言える。
- ・「プラスへ変化」を選択した人は「家族」「機会」「自分」「家」「過ごす」や「在宅勤務」「テレワーク」との関連が強い。自宅で過ごす時間の有効活用がプラスへの変化として表れていると言える。
- ・総じて積極的に外に出て活動していた人ほど、閉じこもることに強いストレスを感じ、今回の事態をマイナスに評価したと考えられる。一方で、発想を変えて自宅で家族や自分の時間を楽しんだ人や、柔軟にテレワークやオンライン会議などデジタルツールに親しんだ人は、それほど深刻なマイナスと受け止めず、むしろプラスに評価する傾向があるのではないかと。

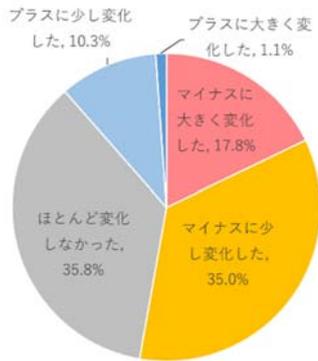


## 1-2 あなたとあなたの家族の関係

### (1) 全体

～離れて暮らす家族と会えない一方、同居する家族との絆は深まる～

- ・約5割（52.8%）がマイナス変化と回答した一方、約1割（11.4%）がプラス変化と回答。
- ・マイナスの影響として、離れて暮らす家族と会えないという意見が大勢を占めた。一方でオンラインによるコミュニケーションの充実や、かえって家族と連絡を取るようになったとの声もあった。
- ・プラスの影響として、一緒に食事を取る、家事を手伝うなど家族と過ごす時間の増加が挙げられる。子どもと一緒に過ごす時間を取ることができ、よい機会になったとの声もあった。
- ・休校措置による子どもの教育の遅れ、自宅待機を強いられた子どもたちのストレスや生活リズムの崩れを懸念する声も多かった。
- ・家族で一緒に過ごす時間が増えた（密の家族）一方で、遠方に住む家族とのつながりが希薄になり（疎の家族）、家族のコミュニケーションのあり方が問われたと言える。

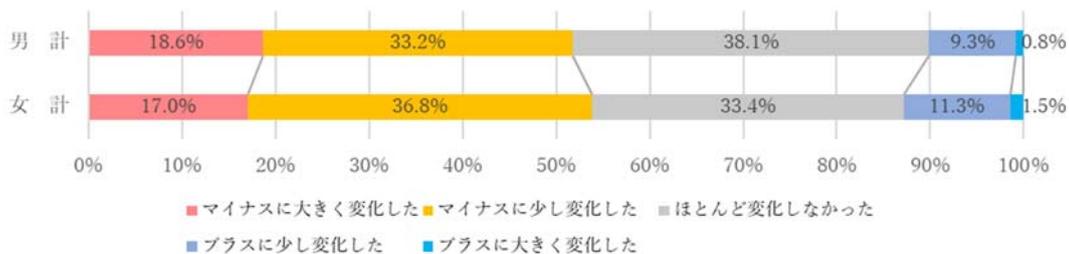


選択肢	回答者数	構成比
マイナスに大きく変化した	223	17.8%
マイナスに少し変化した	437	35.0%
ほとんど変化しなかった	447	35.8%
プラスに少し変化した	129	10.3%
プラスに大きく変化した	14	1.1%
	1,250	

### (2) 男女別

～女性の方がマイナス変化・プラス変化ともに男性より顕著～

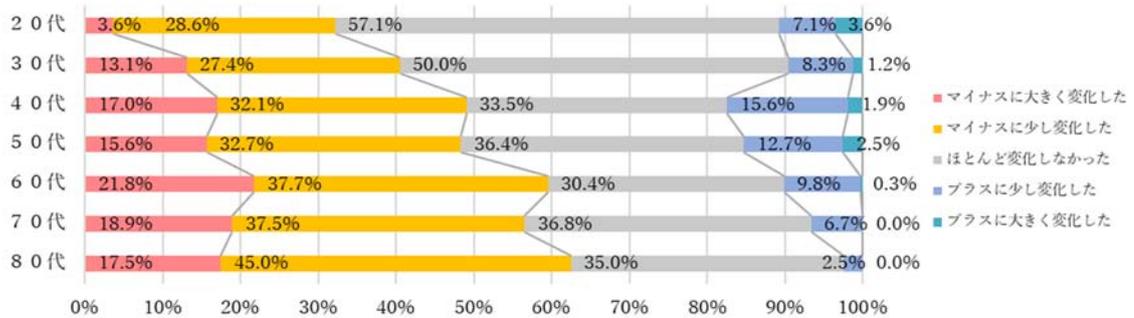
- ・男性は「家族」「子ども」「増える」、女性は「家族」「時間」「増える」に関する回答が多かった。
- ・特徴的な回答は、遠くに住む息子の家族が帰省できない（70代男性）、子どもと接する時間が増え、幸せ（30代男性）、府県を越えた移動の制限で息子の家族に会えない（60代女性）、通勤・通学がなくなり家族と一緒にいる時間が増えた（40代女性）などである。



### (3) 年代別

～マイナス変化の割合は年齢とともに大きく上昇～

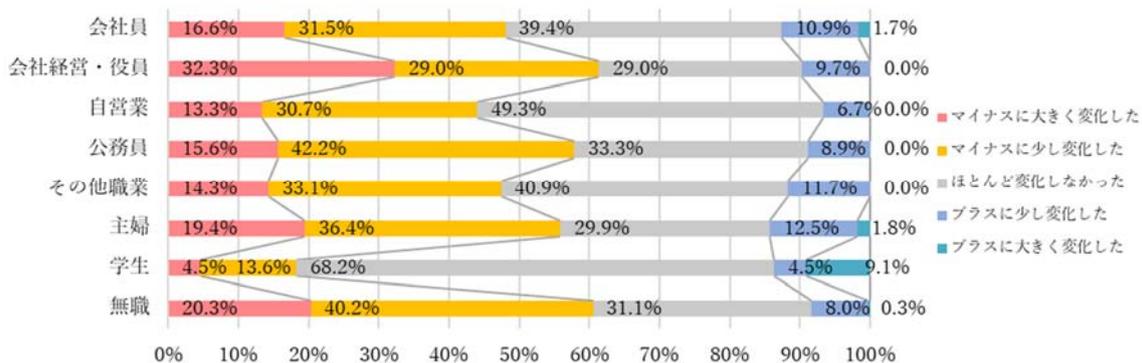
- ・マイナス変化は20～30代は4割以下だが、40～50代は約5割、60～80代は約6割に増加。年齢が上がるほど「離れた家族と会えない」といったマイナス評価が目立ち、年齢が下がるほど「家族とふれあう時間ができた」といったプラス評価が目立つ。
- ・20代は「一緒」、30代は「家族」「子ども」、40～50代は「家族」「時間」「増える」、60～80代は「家族」「孫」に関する回答が多かった。
- ・特徴的な回答は、在宅勤務で家族と一緒にいる時間が増えた（20代女性）、子どもとの時間が増えたことは幸せな変化（30代男性）、家族とのコミュニケーションが増えた（40代女性）、家族の時間が増え、たくさん話げできた（50代女性）、高齢者施設に入居している親と会えず、離れて暮らす息子家族とも会えない（50代女性）、子どもや孫と会えなくなった（60代男性）、孫たちが外出制限で来てくれなくなった（70代男性）、子どもや孫たちに会えない（80代男性）などである。



### (4) 職業別

～会社経営・役員、公務員、主婦、無職で特にマイナス変化が多い、学生は変化なしが多数

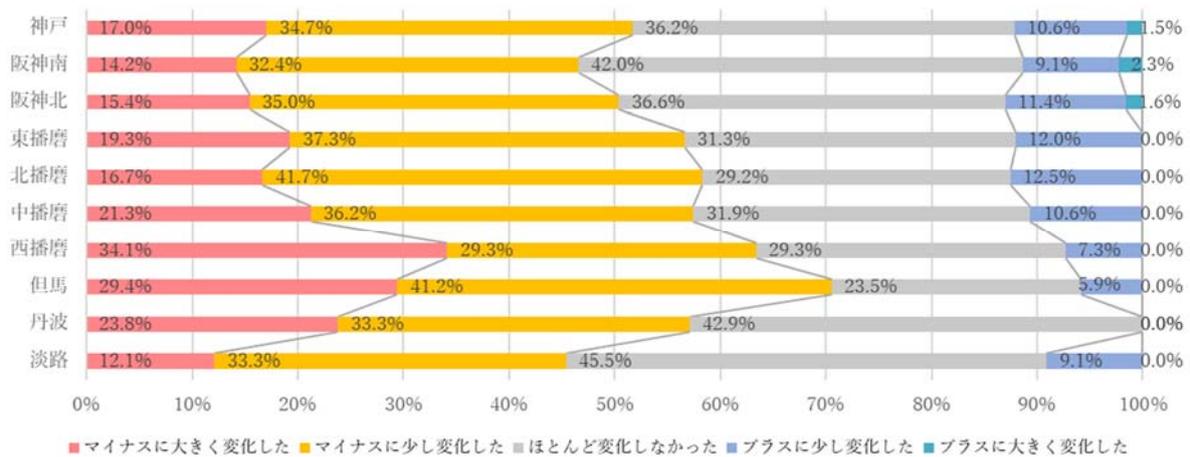
- ・会社員、会社経営・役員、自営業、主婦では「家族」「増える」「子ども」、公務員は「家族」「子ども」、その他職業は「家族」「時間」、学生は「家族」「一緒」、無職は「家族」「孫」に関する回答が多かった。無職は高齢者が多く、離れて暮らす家族と会えないことがマイナス変化に表れている。
- ・特徴的な回答は、家族と過ごす時間が増加（会社員：40代女性）、子どもや孫と会えない（会社経営：60代男性）、大阪の家族と会えない（自営業：70代男性）、離れて暮らす家族との交流が減少（公務員：50代男性）、娘家族が海外から帰れない（その他職業：50代女性）、家族との絆が深まった（主婦：40代女性）、家族と長く一緒に過ごせた（学生：20代女性）、離れて暮らす孫に会えない（無職：70歳男性）などである。



(5) 地域別

～都市部はマイナス変化が少ない一方、地方部はマイナス変化が比較的多い～

- ・神戸、阪神などの都市部でマイナス変化が比較的少ない一方、西播磨、但馬といった都市部から離れた地方部ほどマイナス変化が多い傾向がある。地方部に住む高齢者世帯が都市部で離れて暮らす子ども世帯との交流が困難になったことをマイナス評価している様子が窺われる。
- ・特徴的な回答は、家族で一緒に家にいる時間が増えた（神戸：40代女性）、家族団らんの機会が増えた（阪神南：50代男性）、家族で過ごす時間が増えた（阪神北：40代女性）、東京の家族と行き来ができない（東播磨：70代男性）、遠くに住む息子の家族が帰省できない（北播磨：70代男性）、夫が在宅勤務で昼食作りなど含めてストレスが溜まった（中播磨：50代女性）、県外の家族に会えなくなった（西播磨：60代男性）、大阪の孫が帰省できなかった（但馬：70代女性）、連休に孫や家族が帰省できなかった（丹波：70代男性）、収入は減ったが家族と過ごす時間は増えた（淡路：40代女性）などである。



(6) 主な回答と頻出語句

〈主な回答〉

<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京へ単身赴任の家族が帰って来られない</li> <li>・ゴールデンウィークに帰省するはずだった息子家族に会えなかった</li> <li>・家族で外出することが少なくなった。他県の実家へ帰る回数が減った</li> <li>・市内に住む息子夫婦に長男が生まれたが、まだ会うことができない。お互いに感染を心配して、会うのを控えている</li> <li>・息子の結婚式が延期になった。娘家族が海外に住んでいて帰られなくなっている</li> <li>・外国への転居予定が渡航制限により出発できず娘と孫が精神的に苦労している</li> <li>・外国で駐在している家族が帰国困難になり、日本からのサポートに苦労した。マスクや食料品を国際宅配便で送った</li> <li>・子どもが1月から豪州に留学したがプログラムが消化できず、帰国もままならない</li> <li>・子どもにとって規則正しい生活が難しい状況になり、健康・勉強面での不安が生じた</li> <li>・テレワークになることで狭い家に家族が一日中居ることで疲れた</li> <li>・子どもの教育の遅れがマイナス。特に受験生の歳なので心配</li> <li>・子どもの中学卒業から高校入学が混乱</li> <li>・高校に進学したのに休校で学習に遅れが生じてしまった</li> <li>・小学生の孫たちの学習の遅れが心配。また、自宅待機で友達と遊べずイライラしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族と一緒に過ごす時間が増え、絆が深まった</li> <li>・一緒に過ごす時間が長くなり、食事と一緒に取るようになって家族の有難味がよく分かる</li> <li>・当たり前でいた家族の存在が改めて自分にとって大切なものだと感じた</li> <li>・子どもたちは家族で過ごす時間が増え、親とのふれあいが増え、とても楽しそう</li> <li>・家に居る時間が増え、子どもと接することが増えたのは家族として幸せな変化</li> <li>・東京に住んでいる子どもたちとビデオ通話で顔を見ながら会話をしている</li> <li>・オンライン帰省など新しいことができた</li> <li>・県外に住む家族の帰省も不可になり、専らビデオ電話で会話。便利な世の中に感謝</li> <li>・洗濯干しや食器洗い、ゴミ出しなど家族みんなで役割分担をするようになり助かった</li> <li>・遠く離れている義父、義母と頻繁に連絡を取るようになった</li> <li>・東京で暮らす家族にマスク、食材、衣服、本等を送った。家族の繋がりを感じられた</li> <li>・テレワークで残業や通勤がなくなった分、家族とふれあう時間が増えた</li> <li>・在宅勤務で子どもと過ごす時間が増えた。子どもは読書や映画鑑賞など将来につながる活動が大いにでき、勉強も苦手単元が克服できた</li> <li>・子どもが大学生なので、人生で最後の長時間子どもと暮らす機会になったと思う</li> <li>・小さい頃を除いてこんなに子どもと一緒にいることはもうないと思うと、良い時間が持てた</li> </ul>
---	--

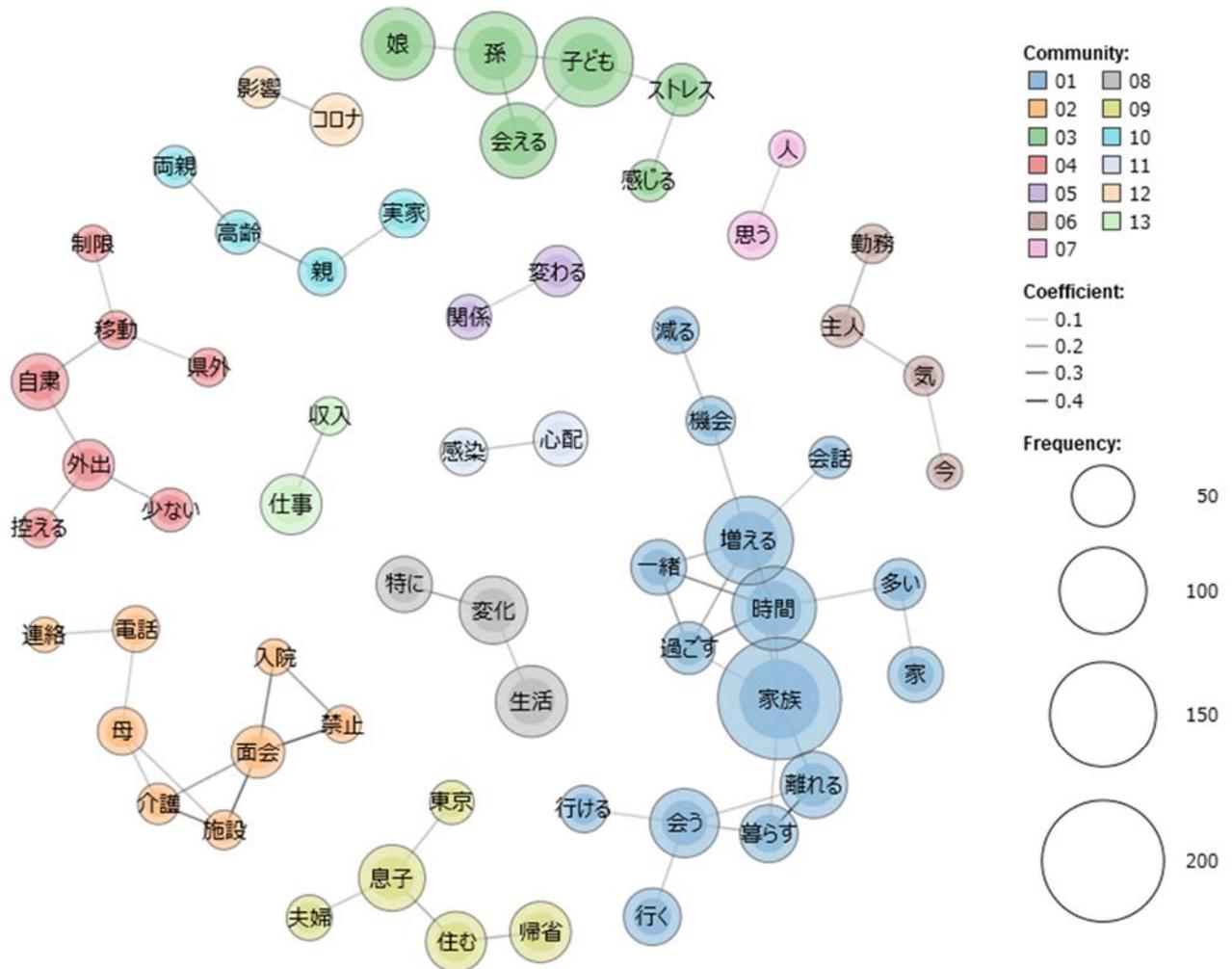
〈主な頻出語句〉

順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数
1	家族	205	6	会える	74
2	子ども	106	7	娘	70
3	増える	104	8	生活	67
4	時間	93	9	会う	62
5	孫	90	10	変化	60

(7) 頻出語句の関係性

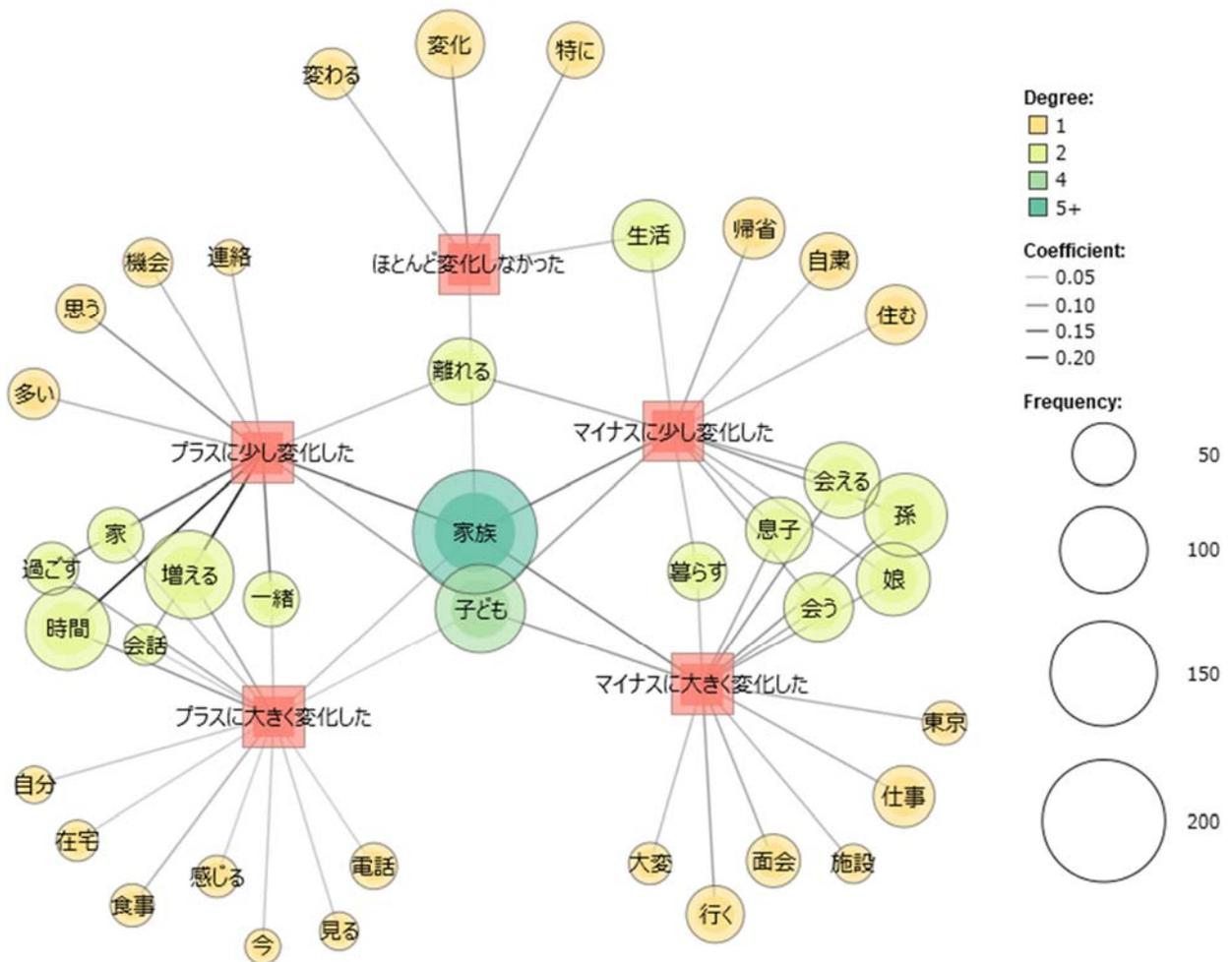
【頻出語句同士の関連】

- ・単語のつながりを分類すると、「家族」は「時間」「過ごす」「増える」「一緒」「離れる」「暮らす」との関連が強く、同居する家族と離れて暮らす家族という2つの家族についての言及がされている。
- ・同居する家族については、「一緒」「過ごす」「時間」「増える」「機会」「多い」「家」といった語句との関連が強く、今回の事態を機会に一緒に過ごす時間が増えている様子が窺われる。
- ・離れて暮らす家族については高齢の親側から見た「孫や子どもと会えない」「遠方（主に東京）に住む子ども夫婦と会えない」と、子ども側から見た「高齢の実家の親と会えない」「介護施設等に入っている親と会えない」という回答に分かれた。核家族化や交通機関の発達、経済のグローバル化で、高齢の親世帯と離れて東京や海外で暮らす子ども世帯が増えていることが、今回の事態を受けてマイナスに影響したと言える。



### 【プラス・マイナス評価と頻出語句の関連】

- ・回答別に分類すると、「マイナスへ変化」を選択した人は「東京」「息子」「娘」「孫」「会える<sup>3</sup>」「面会」といった語句との関連が強い。離れて暮らす家族との関係が疎になったことが大きくマイナスの影響として表れている。
- ・「プラスへ変化」を選択した人は「家」「一緒」「過ごす」「時間」「会話」「増える」といった語句との関連が強い。今回の事態を機会として家族と一緒に過ごす時間が増えたことがプラスへ大きく影響した様子が窺われる。
- ・総じて、外出・移動の自粛により離れた家族と会うことが大きく制限された一方、同居する家族との時間が増え、関係はより密になったと言える。



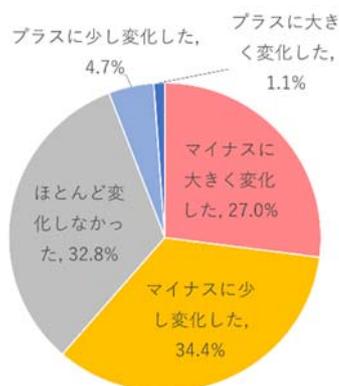
<sup>3</sup> 「KH Coder」では活用のある語句はすべて終止形に変換して抽出される。共起ネットワーク図で出現する『会える』は実際の文脈では「会え（なかった）、会え（ない）、会え（ず）」、『会う』は「会う（ことができなかった）、会い（に行けなかった）、会っ（ていない）」が太宗を占める。

### 1-3 あなたのお勤め先、自営業の状況

#### (1) 全体<sup>4</sup>

～多くの業種で売上が減少する一方、情報通信や食品など一部の業種では需要が増加～

- ・約6割(61.4%)がマイナス変化の一方、約6%(5.8%)がプラス変化と回答。
- ・業種によって明暗が分かれ、マイナスの影響が大きいのは飲食や観光・ブライダルなど接客を中心としたサービスを行う業種である。一方でテレワークの導入で需要が増加した情報通信や、内食の需要を取り込んだ食品関係からはプラスに影響との回答もあった。活動の場が外から内へシフトし、業種間でニーズが大きく動いた結果と言える。
- ・テレワークの導入については労使双方から概ね好意的な回答があった一方、介護施設や障害者施設に勤務する人からは対応が困難との声も寄せられた。

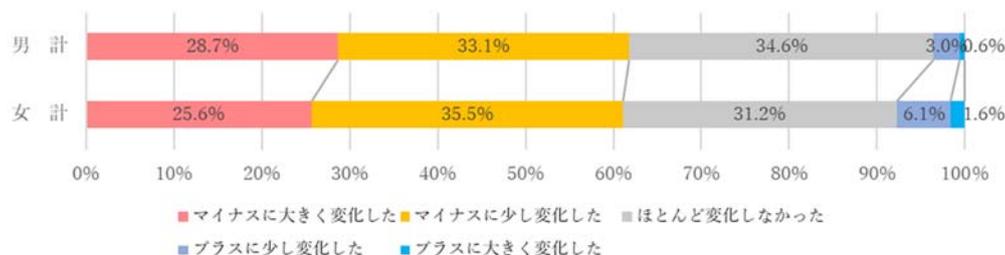


選択肢	回答者数	構成比
マイナスに大きく変化した	192	27.0%
マイナスに少し変化した	244	34.4%
ほとんど変化しなかった	233	32.8%
プラスに少し変化した	33	4.7%
プラスに大きく変化した	8	1.1%
	710	

#### (2) 男女別

～マイナス変化は男女ともにほぼ同じ、プラス変化は女性が僅かに多い～

- ・男女ともに、「仕事」「売上」「収入」「減る」に関する回答が多かった。
- ・特徴的な回答は、仕事が止まって収入が全くなくなった(50代男性)、製造業だが売上の大幅減により年収減少に響きそう(40代男性)、コロナ感染対策で仕事量が増えた(40代女性)、介護の仕事をしているため休みにはならず、むしろ来てほしいと言われた(50代女性)などである。

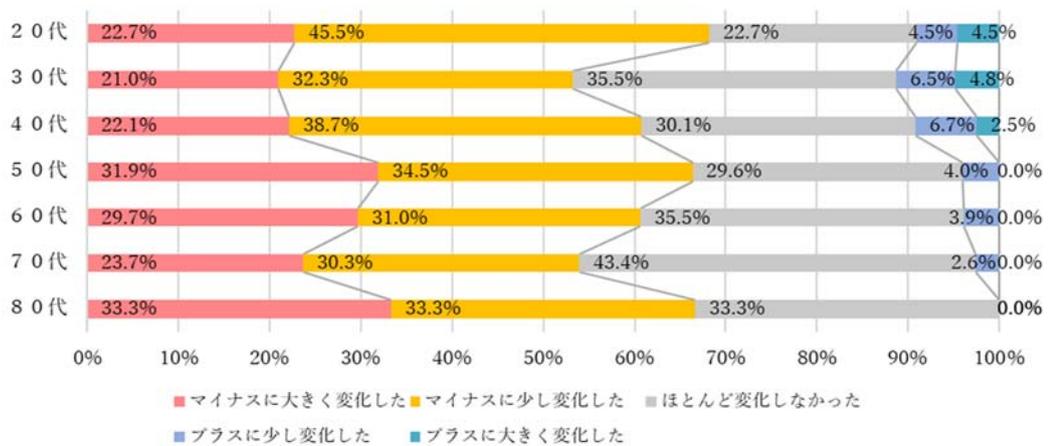


<sup>4</sup> 「お勤めの方や自営業(農林水産業を含む)の方」710名が回答(登録ベースの属性データで主婦、学生、無職の方を含む)

### (3) 年代別

～年代を問わずマイナスの影響。売上減少の一方、コロナ感染防止対応による業務増加も～

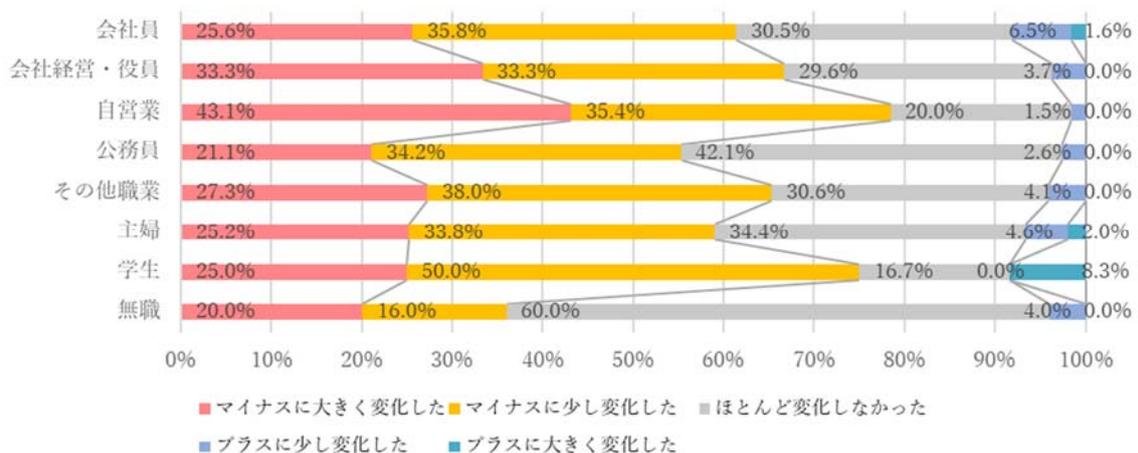
- ・20代は「業務」「増える」、30代は「仕事」「テレワーク」、40代は「仕事」「売上」、50～60代は「仕事」「減る」、70代は「減る」「収入」に関する回答が多く、80代でも「レッスン料が入らなかった」などの回答があった。
- ・特徴的な回答は、衛生面の徹底やコロナ感染防止で増加した業務が負担（20代女性）、テレワークが推奨されて働きやすくなった（30代女性）、売上は減少し人員補充もなく休みをとれない人もいる（40代女性）、受注の大幅減で売上も減少（50代男性）、観光業等の仕事なくなり収入が激減（60代男性）、注文が入らず収入が減った（70代女性）、ボランティアで外国人に日本語を教えているがクローズした（80代男性）などである。



### (4) 職業別

～比較的自営業でマイナスの影響が大きい～

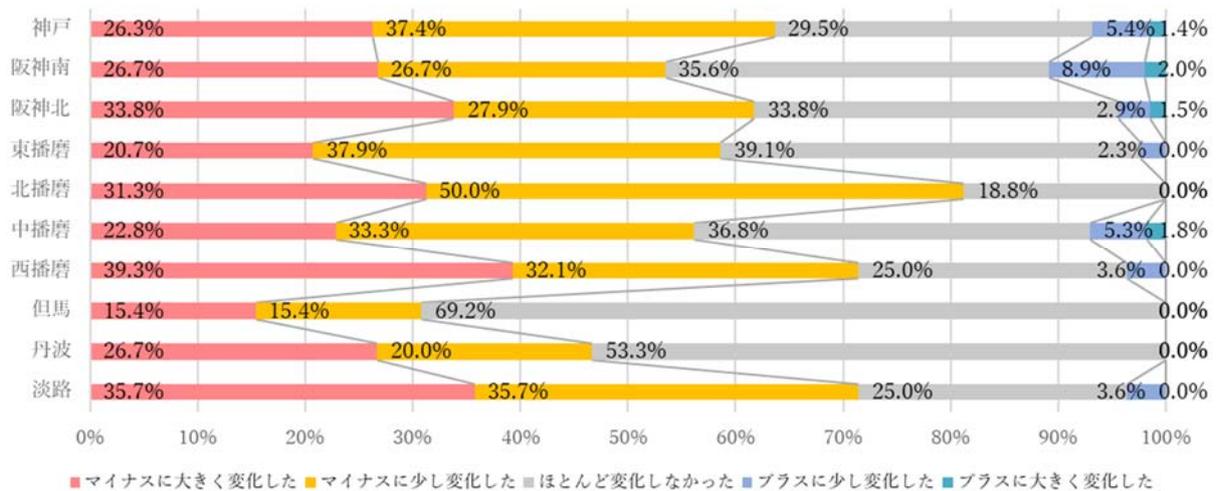
- ・会社員、会社経営、自営業、その他職業では「売上」「仕事」「減る」、公務員は「仕事」「増える」、主婦は「勤務」「減る」、学生は「業務」「マスク」に関する回答が多かった。
- ・特徴的な回答は、業務が減少して売上に影響（会社員：20代女性）、売上が半分以下で非常に厳しい（会社経営：60代男性）、仕事がほとんどキャンセルになった（自営業：50代女性）、コロナ感染対策の仕事が増加（公務員：40代女性）、ドアノブなど仕事部屋の消毒が負担（その他職業：50代女性）などである。



(5) 地域別

～但馬や丹波など地方部ではマイナス変化が比較的少ない～

- ・神戸、阪神、播磨地域で「仕事」「減る」に関する回答が多数を占めた一方、但馬や丹波では変化なしとする回答も多かった。飲食や観光など接客を中心とするサービス業が都市部に多い一方、地方部では公共事業や農業などの第一次産業が多いことが一定程度影響していると考えられる。
- ・特徴的な回答は、旅行業なので売上減、会社の存続に不安（神戸：40代女性）、自宅で食事する人が増え需要が増加したので忙しくなった（阪神南：50代女性）、文化施設の仕事をしているが全く客が入らない（阪神北：50代女性）、イベント関係は人が集まって成立するので仕事なくなった（東播磨：50代女性）、障害者福祉サービス事業所なので感染防止対策で緊迫した状態（北播磨：50代男性）、飲食店で客が減りパートの人に休んでもらっている（中播磨：40代女性）、休業で売上が減り会社が存続の危機（西播磨：50代男性）、公共事業が主なので現時点では影響はない（但馬：60代男性）、農業は特に影響は受けず田植えなども例年通りに実施（丹波：70代男性）、観光施設が多いため売上が減少（淡路：50代男性）などである。



(6) 主な回答と頻出語句

〈主な回答〉

<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事が止まり、収入が全くなかった</li> <li>・受注数が減り生産量も4割減となった</li> <li>・仕事がほとんどキャンセルで補償がない</li> <li>・仕事がキャンセルで収入が激減</li> <li>・テレワーク商材などの引き合いもあり追い風となった(情報通信)</li> <li>・ビジネスの相談が増えた(情報通信)</li> <li>・店は大盛況である(コンビニ)</li> <li>・自宅で食事する人が増え、需要が増えて忙しくなった(食品関係)</li> <li>・客数は少なかったが1人1人の単価が大きく、売上はコロナ前より良い(食品関係)</li> <li>・内食需要が高まり忙しかった(食品関係)</li> <li>・4~5月の自粛時期は注文が増加し、1~2割作業時間を増加し、給与も増加(個別宅配業務)</li> <li>・激しく業務が増えた(運送業)</li> <li>・出張を伴う仕事は避けたので多少収入は減ったが、オンラインで解決することも多かった(コンサルタント)</li> <li>・特に影響は受けず田植なども例年通りに行った。マスクも不要(農業)</li> <li>・テレワークを増やしオンライン診療も採用し、職場は変化した(医療機関)</li> <li>・患者数が大幅に減少。感染対策のマスクの供給が不足した(医療機関)</li> <li>・仕事が全くなり収入が激減(観光業)</li> <li>・全く先が見えず厳しい状況(ブライダル関係)</li> <li>・3~5月と学校が休校となり塾も開けることが出来なかった(学習塾)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・売上が減少し今後も同様なら会社自体の存続が不安(旅行業)</li> <li>・1か月間の休業後も客足の減少で収入が減った(喫茶店経営)</li> <li>・お客さんが減りパートの人に暇を出して休んでもらっている(飲食店)</li> <li>・売上高の大幅減がボーナスに影響して年収の減少に響きそう(製造業)</li> <li>・売上は減少。消毒に経費はかかるが来客は少ない(アミューズメント店)</li> <li>・教室を6月から再開したが生徒が減少、元には戻らないと思う(音楽教室)</li> <li>・飲食業の入居者で100万円以上の滞納が発生(不動産賃貸)</li> <li>・需要は変わらないが感染リスクが不安(介護)</li> <li>・休みにはならず、むしろ来てほしいと言われた(介護)</li> <li>・通常通りの開所で、利用者も通常通りに通所していたので、特に変化なし(障害者施設)</li> <li>・テレワークや時差出勤を前向きに考えてくれるようになった</li> <li>・テレワーク導入を推進できて、通勤時間の解消につながった</li> <li>・テレワークが導入され、働きやすくなったという人もいるが、意思疎通が図りづらかった</li> <li>・テレワークによるネガティブ面はなく、むしろ集中できる時間の確保が容易になり効率的</li> <li>・テレワークが推奨され、在宅勤務をする機会が増えたので、働きやすくなった</li> </ul>
--	---

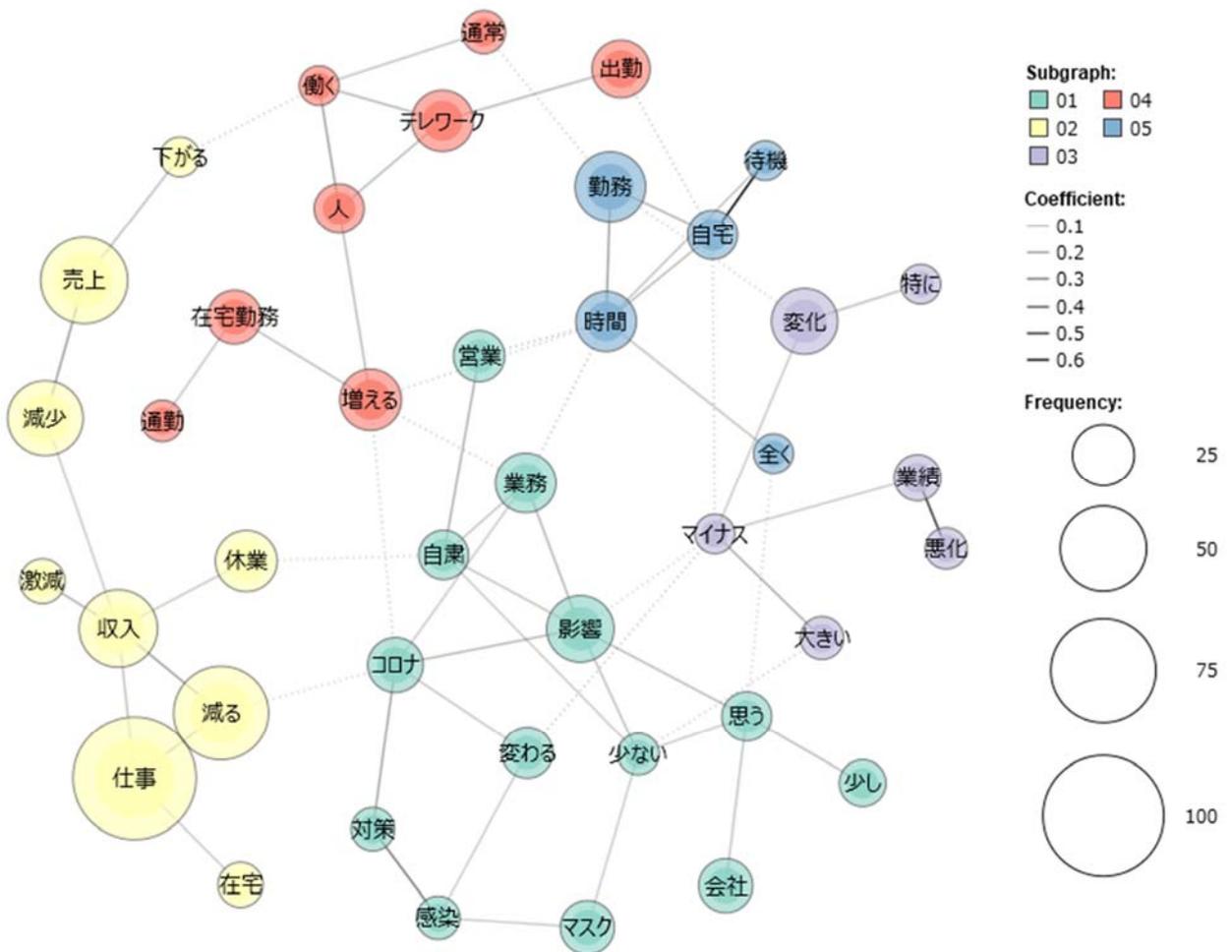
〈主な頻出語句〉

順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数
1	仕事	104	6	勤務	33
2	減る	61	7	影響	30
3	売上	51	8	変化	29
4	収入	41	9	テレワーク	25
5	減少	38	10	休業	25

(7) 頻出語句の関係性

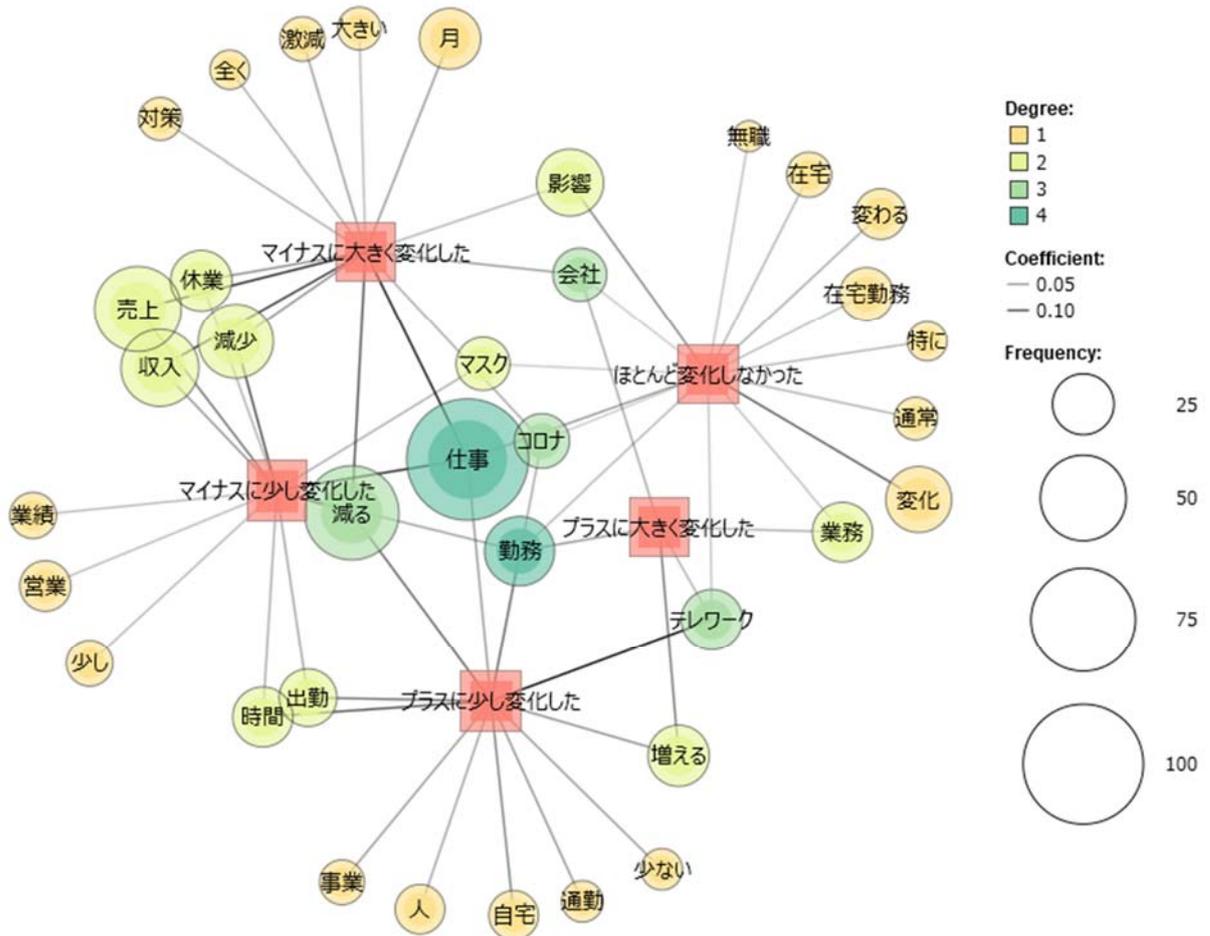
【頻出語句同士の関連】

- ・単語のつながりを分類すると、売上の減少（営業自粛、業績悪化）、働き方の変化（在宅勤務、テレワーク、通勤等）への言及が多い。
- ・「売上」と「減少」、「収入」と「激減」、「仕事」と「減る」、「営業」と「自粛」が関連し、事業が大きな影響を受けたことが窺われる。
- ・一方で「在宅勤務」と「増える」、「自宅」と「勤務」、「テレワーク」と「働く」が関連し、今回の事態を受けて勤務先の状況が対面からテレワークへとシフトした様子が表れている。



### 【プラス・マイナス評価と頻出語句の関連】

- ・回答別に分類すると、「マイナスへ変化」を選択した人は「休業」「売上」「減少」といった言葉が並び、今回の事態を受けて事業の状況が大きくマイナスへ傾いたことが表れている。
- ・「プラスへの変化」を選択した人は「テレワーク」「出勤」「時間」といった言葉が並び、テレワークの導入が進み、出勤時間が削減され生活にプラスの影響があった様子が窺われる。
- ・総じて仕事が減ったことによる悪影響の一方、働き方の変化による生活満足度の向上が窺える。

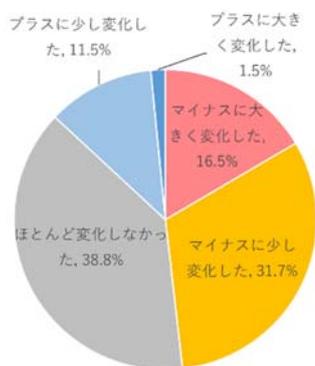


## 1-4 あなたの日々の働き方

### (1) 全体<sup>5</sup>

～収入減と消毒等の業務増加。一方、テレワークによる仕事の効率化、生活の質の向上も～

- ・5割弱（48.2%）がマイナスに変化と回答した一方、13.0%がプラスに変化と回答。
- ・仕事がなくなった、減ったという声がある一方で、コロナ対策で業務が増えたという声も多く、幅広い業務に影響が及んだことが読み取れる。
- ・テレワークに関する意見が多数寄せられた。多くの職場でテレワークが導入されたことが窺われる。在宅でも同様に仕事ができることがわかった、集中して効率よく仕事できる、不要な会議や残業が減った、通勤がなくなりプライベートな時間が増えたといった好意的な回答が多かった。
- ・一方で、テレワークできるセクションとできないセクションの格差が出た、相談が難しい、介護などの業種では困難、子どもが家にいて仕事にならないといった声もあった。

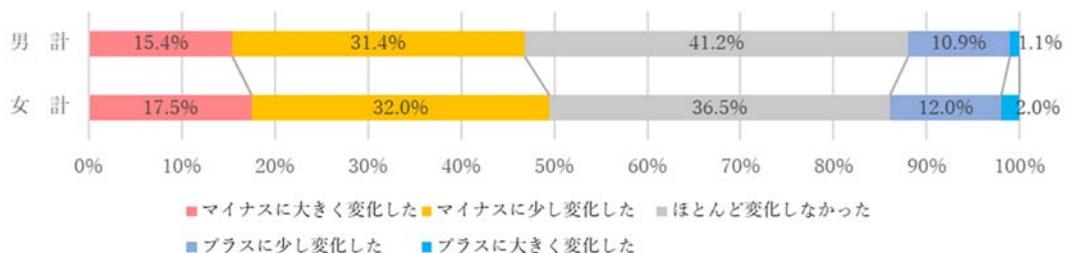


選択肢	回答者数	構成比
マイナスに大きく変化した	128	16.5%
マイナスに少し変化した	246	31.7%
ほとんど変化しなかった	301	38.8%
プラスに少し変化した	89	11.5%
プラスに大きく変化した	12	1.5%
	776	

### (2) 男女別

～マイナス変化、プラス変化ともに女性が僅かに多い～

- ・男性は「仕事」「在宅勤務」「テレワーク」、女性は「仕事」「時間」「増える」に関する回答が多い。
- ・特徴的な回答は、在宅勤務が導入され、会議や懇親会が中止になった（50代男性）、スムーズにテレワークに移行でき、問題なく業務遂行できている（40代男性）、勤務時間が短くなった（50代女性）、消毒や掃除などの手間が増えた（50代女性）などである。

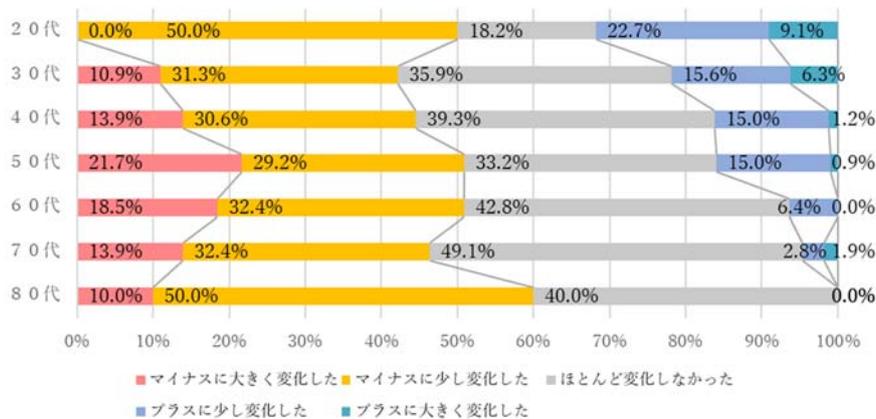


<sup>5</sup> 「お勤めの方や自営業（農林水産業を含む）の方」776名が回答（登録ベースの属性データで主婦、学生、無職の方を含む）

### (3) 年代別

～若い世代ほどテレワーク環境に適応し、プラスの変化が多い～

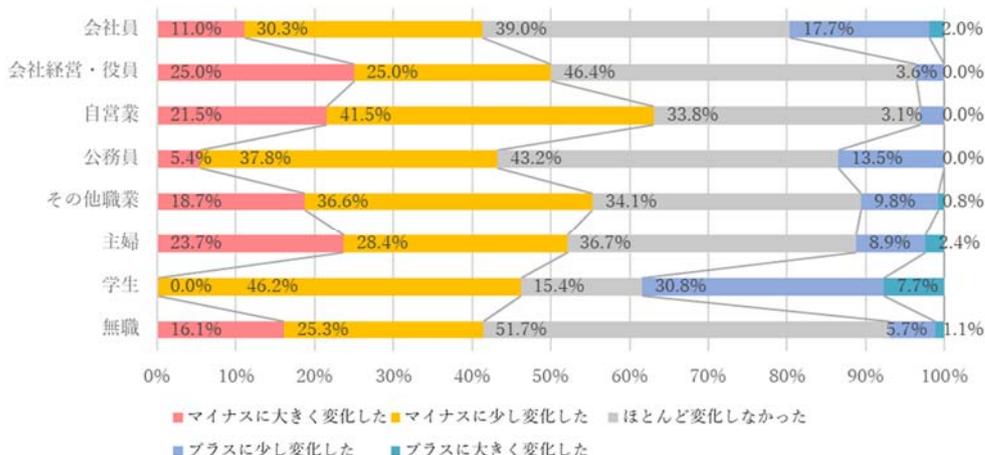
- ・20代の3割以上、30代の2割以上、40～50代でも15%以上でプラスの変化があり、若い世代を中心に現役世代に良い影響があった。20代は「在宅勤務」「増える」、30代は「テレワーク」「在宅勤務」、40代は「仕事」「テレワーク」、50代は「仕事」「時間」、60代は「仕事」「在宅勤務」についての回答が多く、70代以上からは農業等のため特段の変化はないといった回答があった。
- ・特徴的な回答は、在宅勤務が導入され感染の心配が減った（20代男性）、テレワークで大幅に仕事の進め方が変わった（30代女性）、テレワークで通勤が楽になった（40代男性）、テレワークにより通勤時間が削減された（50代女性）、在宅勤務で時間に余裕はできたが客先への訪問等ができない（60代男性）、清掃の仕事で通常通り働かなくてははいけなかった（70代女性）などである。



### (4) 職業別

～自営業でマイナスの変化が多い一方、会社員でプラスの変化が多い～

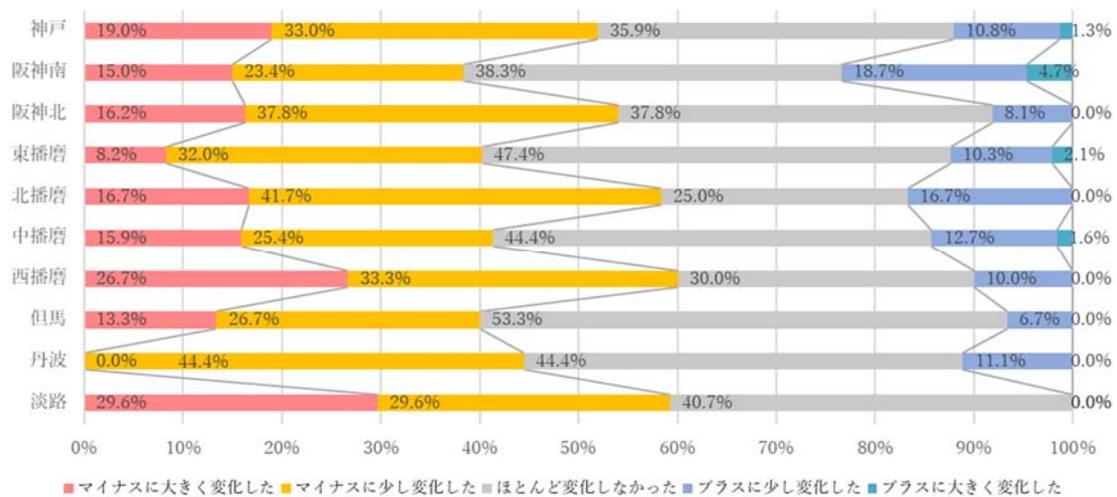
- ・会社員は「在宅勤務」「テレワーク」、自営業・その他職業は「仕事」「減る」、公務員は「仕事」「増える」についての回答が多く、会社経営・役員からは「営業の制約を受け満足に仕事ができない」といった回答があった。店舗での対面によるサービス提供が多い自営業はマイナスの影響を受けた一方、会社員はテレワークの導入などでプラスの影響が大きかったと考えられる。また、公務員からはコロナ対策で業務が増加したとの声があった。
- ・特徴的な回答は、在宅でも出勤と同等の実績が上がるのがわかった（会社員：40代女性）、店を開いても閑古鳥だが、補償がないので休むわけにもいかない（自営業：30代男性）、コロナ対策で仕事が倍増（公務員：50代男性）、勤務時間が短くなった（その他職業：60代女性）などである。



(5) 地域別

～地域を問わずテレワークを評価する声が多い一方、消毒等の業務負担増加の声も多い～

- ・神戸・阪神南などの都市部で在宅勤務・テレワークに関する回答が多かった。公共交通機関を利用して通勤する人が多く、出勤者の削減要請に伴いテレワークを経験した影響が表れている。
- ・テレワークの取組を評価する声が地域を問わず寄せられた。マイナス面では、神戸・阪神を中心とする都市部で営業制限等に伴う収入減を挙げた回答が多かった。一方、播磨地域や但馬、丹波、淡路などの地方部からは、感染防止のための衛生対応等の業務の増加や行動制限への不満、テレワークの実施体制が追いついていないとの声が寄せられた。
- ・特徴的な回答は、在宅勤務によって残業なしで働くようになり、出勤時間が無駄と感じるようになった（神戸：20代女性）、テレワークがメインになり、通勤時間を有効に使えるようになった（阪神南：50代男性）、ソーシャルディスタンスの声掛けや消毒作業等が増えた。理解のない人もおり精神的負担も大きい（阪神北：40代女性）、通勤せずリモートで働けるので時間のゆとりができた（東播磨：50代男性）、在宅勤務で通勤時間がなくなり余裕ができた（北播磨：40代女性）、リモートワークができないため通勤していたが、自粛期間は人が少なく感染の不安は少なかった（中播磨：30代男性）、患者は減ったが消毒・感染予防に時間がかかり神経も使う（西播磨：50代女性）、コロナ感染対策に気をつけるようになった（但馬：60代女性）、窓口対応で衛生面に気を遣わないといけないのがストレス（丹波：20代女性）、現場仕事が多くほとんど全ての仕事がキャンセルとなった（淡路：50代男性）などである。



(6) 主な回答と頻出語句

〈主な回答〉

<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務が停止し仕事なくなった</li> <li>・現場での仕事が多くほぼ全てがキャンセルに</li> <li>・時短勤務で収入が減った</li> <li>・在宅勤務は通勤時間も働けるし部下に話しかけられることもないため集中して仕事ができるので効率がアップする。ただし気分転換が難しいし、部下のフォローがやりづらい</li> <li>・在宅だと自分のペースで効率よく仕事が進む</li> <li>・在宅だけではできないこともあるが、無駄なお喋りや雑務をする必要がなくなり、仕事に集中して取り組めた</li> <li>・実際に在宅勤務をしてみて在宅でもほぼ同じ実績が上がるのがわかった</li> <li>・テレワーク導入で不要な会議が減った</li> <li>・自身のテレワークの活用、電子契約の進展など社内の雰囲気も変わった</li> <li>・テレワークの結果「周りに気遣っての残業」が減った。大変よい傾向であるため、これを機にテレワークや時差出勤は継続してほしい</li> <li>・介護と仕事のバランスが限界のところでは在宅勤務ができるようになった。たった週1回の在宅勤務でも精神的に楽になった</li> <li>・変化が迫られる中、オンライン会議などへの取組が進んだ。アフターコロナでも継続してほしい。ただしまだ使い勝手は悪く、要改善</li> <li>・テレワークで出勤時間の短縮にはなったが、仕事量が増えた</li> <li>・テレワークは在宅勤務で通勤不要だがミーティングや相談がしづらく、評価が難しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅勤務で通勤がない分ゆとりができた</li> <li>・在宅でできる仕事が少ないが、どのようなものができるか考えるきっかけになった</li> <li>・テレワークがしやすいセクションとそうでないセクションの格差がはっきり出た</li> <li>・時短勤務でプライベートの時間が増加した</li> <li>・在宅勤務が導入され感染の心配や体力の負荷が少なくなった。ただ、在宅勤務によって増える電気代、通信費などは支給されず負担感がある</li> <li>・子どもたちが日中家にいるので仕事ができず、昼夜逆転して大変</li> <li>・家では子どもがいて集中して働くのが難しかった。集中できる夜中に仕事をして寝不足</li> <li>・在宅勤務で子どもを見ながら仕事をするのはかなりキツかった</li> <li>・仕事柄、テレワークにはならなかったが、労働時間の短縮になった</li> <li>・清掃の仕事なので休みがなく、通常通り働かなくてはいけなかった</li> <li>・コロナに伴う雑務が増えて仕事が忙しい</li> <li>・ソーシャルディスタンスの声掛け、消毒作業等、仕事量が増えた。理解のない方人もおり精神的負担も増えた</li> <li>・消毒、入場管理に人手が必要で出勤が増えた</li> <li>・新たに出勤時の体温測定の義務化や日々の健康チェック表への記入などの作業が増えた</li> <li>・マスク着用、客との距離確保、消毒の頻繁な実施で手間が著しく増えた</li> </ul>
---	--

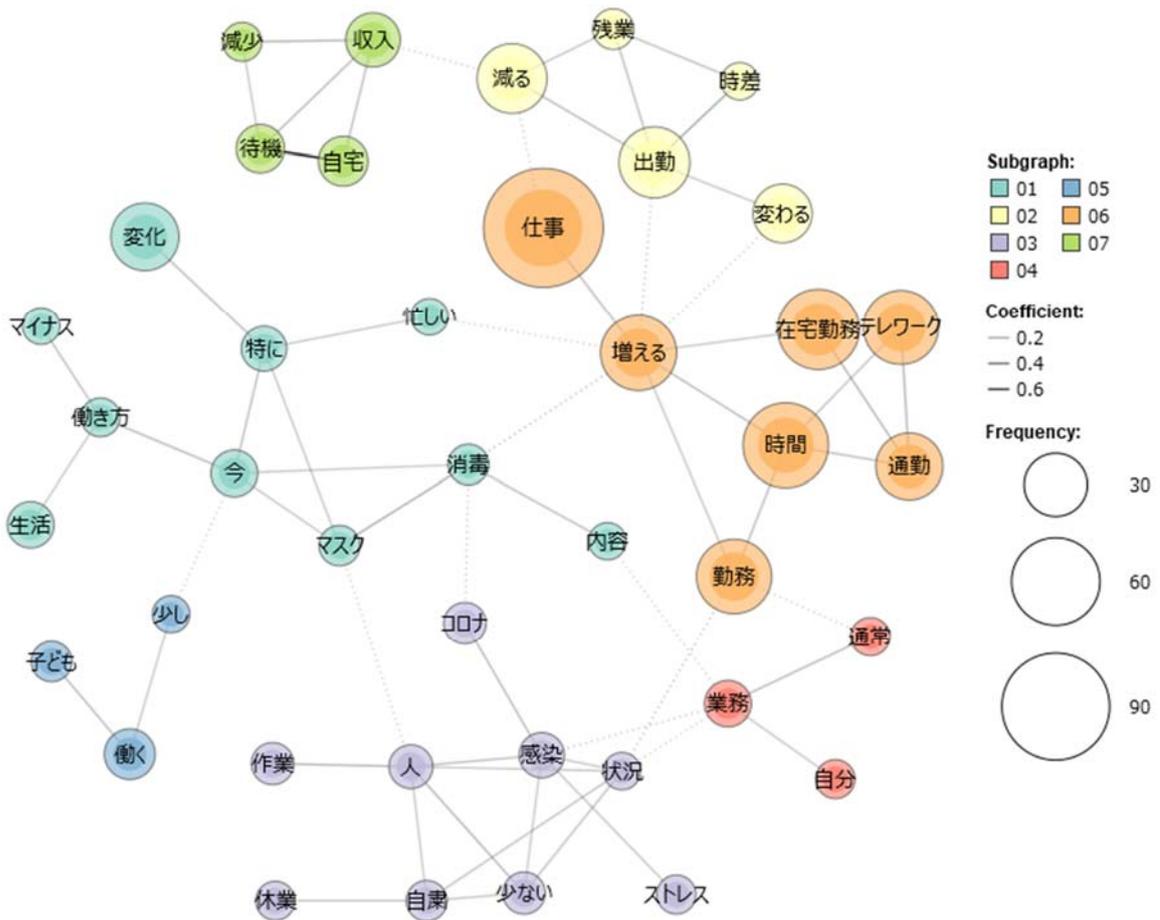
〈主な頻出語句〉

順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数
1	仕事	112	6	勤務	43
2	時間	56	7	出勤	38
3	在宅勤務	51	8	減る	37
4	増える	44	9	変化	35
5	テレワーク	43	10	通勤	34

(7) 頻出語句の関係性

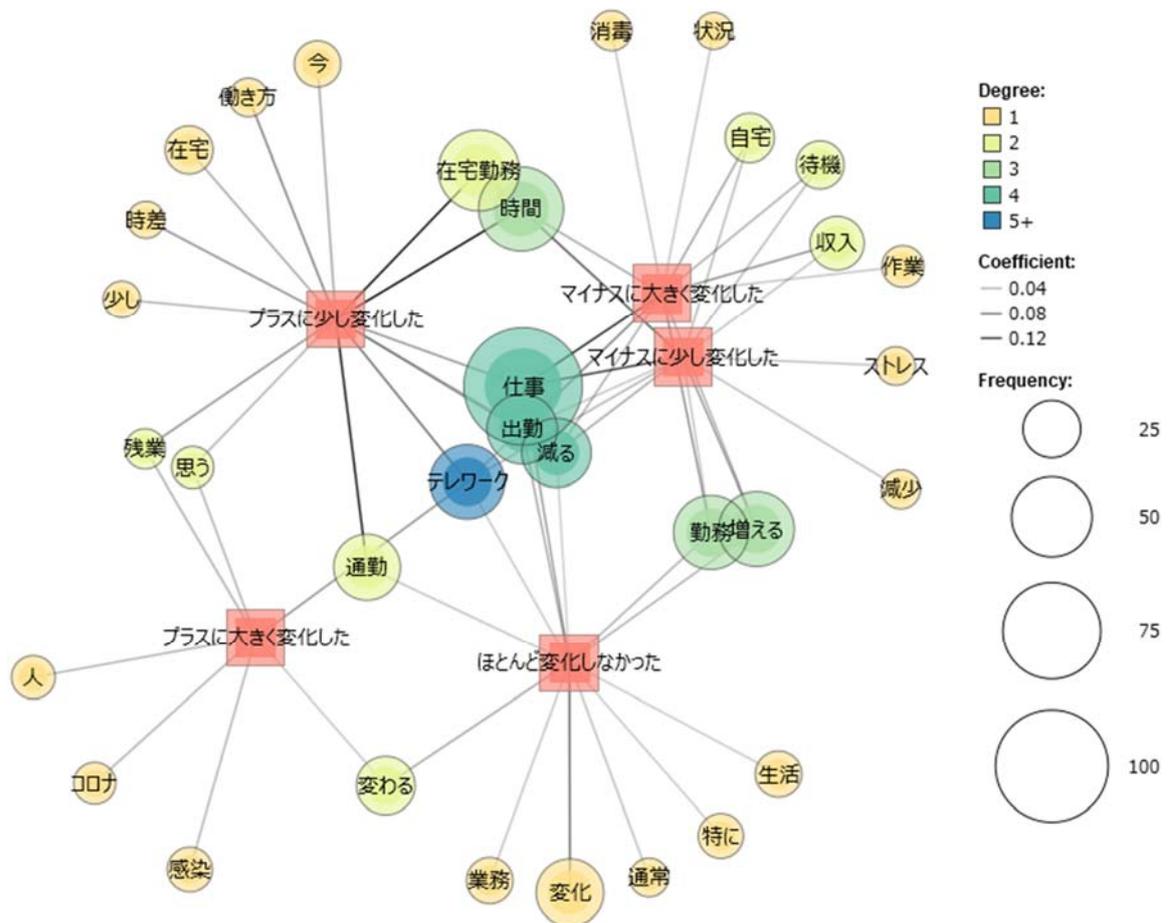
**【頻出語句同士の関連】**

- ・単語のつながりを分類すると、「在宅勤務」「テレワーク」に関連して「増える」「時間」「通勤」「仕事」といった単語が出現している。また、「残業」と「減る」、「時差」と「出勤」も関連しており、今回の事態を受けて働き方が大きく変わった様子が表れている。
- ・一方で「自宅」「待機」「収入」「減少」に強い関連があり、自宅待機による出勤の減少で収入が減った状況が窺われる。また「マスク」「消毒」と「増える」といった語句が関連しており、感染防止対応として新たな業務が増えている状況が見て取れる。



### 【プラス・マイナス評価と頻出語句の関連】

- ・回答別に出現語句を分類すると、「マイナスへ変化」を選択した人は「収入」「待機」と関連しており、出勤が減って自宅待機となり収入が減ったとの回答が多数あったことが影響していると考えられる。また「消毒」「作業」といった言葉は、コロナ感染防止のための消毒業務や体温測定、健康チェック表への記入などが増えたことが影響している。
- ・「プラスへの変化」を選択した人は「テレワーク」「在宅勤務」「通勤」「働き方」「時差」と関連しており、テレワークの導入が働き方に大きなプラスの変化を及ぼした様子が窺われる。
- ・総じて、マイナス評価の要因は仕事の減少による減収、プラス評価の要因はテレワークによる生活の質の向上と整理できる。

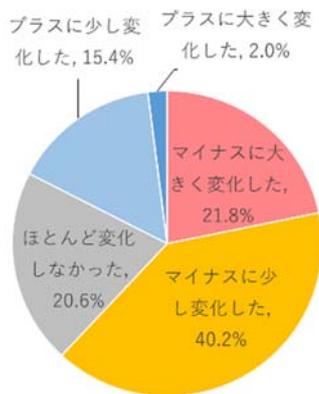


## 1-5 あなたの時間の過ごし方（お仕事以外の活動、余暇等）

### (1) 全体

～旅行や趣味の活動など外出が制限される一方、読書や片付けなど自宅で過ごす時間が好影響～

- ・約6割（62.0%）がマイナスに変化と回答した一方、約2割（17.4%）がプラスに変化と回答。
- ・旅行や映画館に行けずイベントが中止になったという声が多数あった。ボランティアなどの社会活動にも抑制の動きが広がったことと関連して、「不要不急の考えがずれている」「必要なものまで自粛に追い込んでいる」といった声も聞かれた。
- ・一方、片付けや読書・映画鑑賞等が充実、家族とゆっくりと過ごせたといった前向きな回答も多く、回答が二極化している様子が窺える。内にこもる人と活発に活動する人で明暗が分かれ、スポーツジムの閉鎖等に伴い自宅にこもり運動不足となる人がある一方、自宅でトレーニングに励んだ、散歩を習慣づけて運動量が増えたといった声も多数あった。

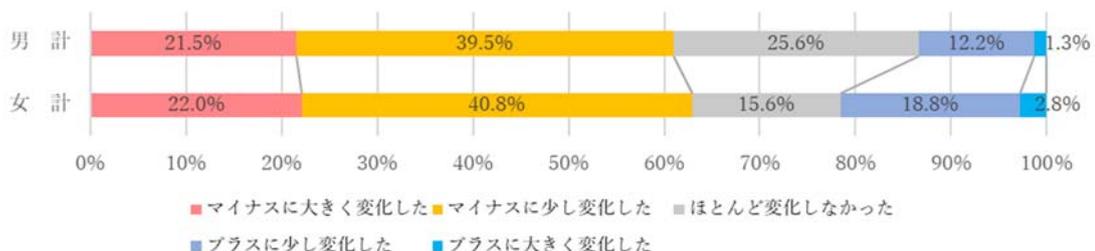


選択肢	回答者数	構成比
マイナスに大きく変化した	272	21.8%
マイナスに少し変化した	502	40.2%
ほとんど変化しなかった	258	20.6%
プラスに少し変化した	193	15.4%
プラスに大きく変化した	25	2.0%
	1,250	

### (2) 男女別

～男性より女性の方がプラス変化が多い～

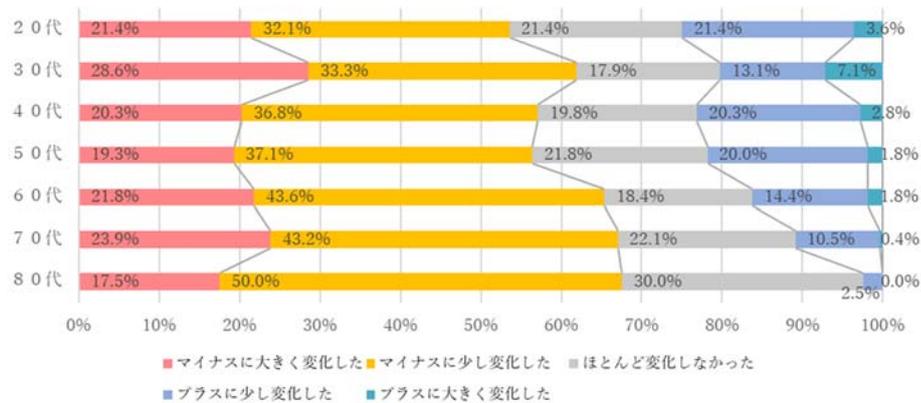
- ・男性は「時間」「活動」「外出」「中止」、女性は「時間」「家」「増える」「趣味」に関する回答が多かった。
- ・特徴的な回答は、ジム通いなどが中止となり家に閉じこもっている（60代男性）、ボランティア活動が中止になった、短絡的ではないか（60代男性）、趣味の美術館通いができなくなった（50代女性）、家で趣味の時間を取ることができた（50代女性）などである。



### (3) 年代別

～年齢の上昇とともにマイナス変化が増え、プラス変化が減る傾向～

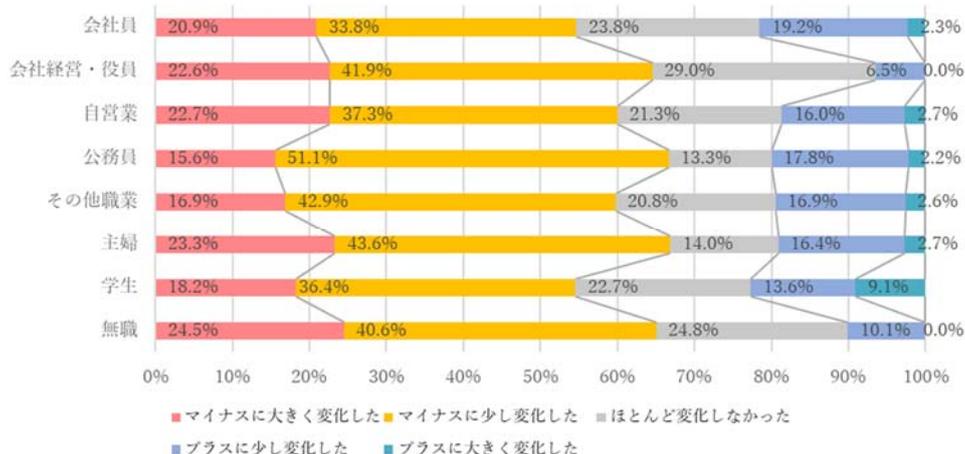
- ・年齢が上がるとともに、ボランティアや趣味の活動ができなくなり、家に閉じこもりがちとなったといったマイナス評価の回答が増える傾向がある。
- ・20代は「家」「過ごす」、30～40代は「家」「子ども」、50代は「外出」「家」「増える」、60～70代は「活動」「外出」「趣味」、80代は「テレビ」「活動」についての回答が多かった。
- ・特徴的な回答は、家で片付けなどができた（20代女性）、子どもとのふれあいが増えた（30代女性）、外出はできなかったが子どもと過ごす時間が増えた（40代女性）、家族との時間が増えた（50代女性）、趣味やボランティアの活動が休止（60代男性）、余暇の活動が全てキャンセルになり外出しなくなった（70代男性）、室内でテレビを見て過ごすことが増えた（80代男性）などである。



### (4) 職業別

～全職種でマイナス変化が多数だが、会社経営・役員、無職以外ではプラス変化も多い～

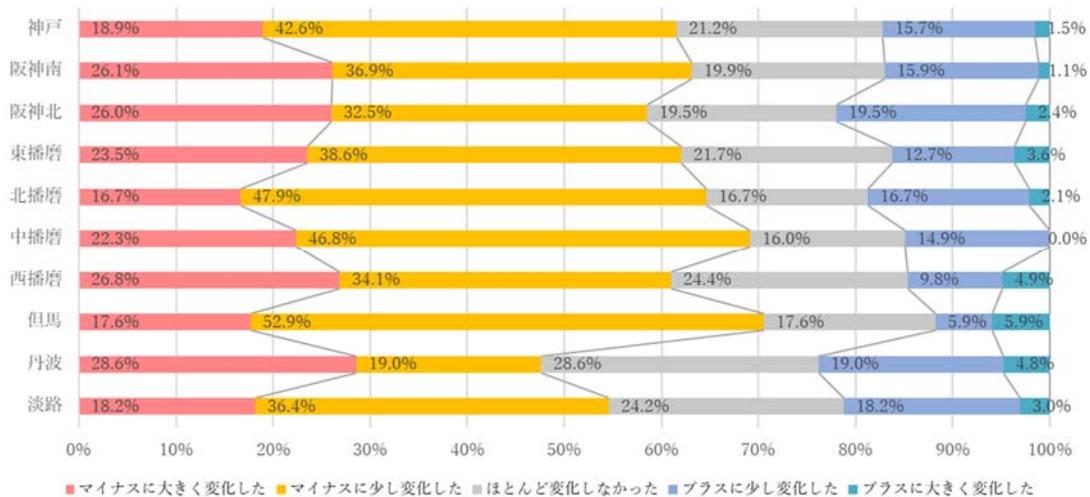
- ・会社員は「外出」、会社経営は「趣味」、自営業・公務員は「外出」、その他職業・主婦は「家」「増える」、学生は「自粛」、無職は「外出」「中止」についての回答が多かった。無職は高齢者に多く、マイナスの影響が大きかったことが窺われる。
- ・特徴的な回答は、片付けや家族との時間が取れた（会社員：50代男性）、趣味の音楽教室やスポーツジムが閉鎖（会社経営：60代男性）、散歩や片付けなど自分の時間が増加（自営業：50代女性）、地域活動の会議がなくなり片付けができた（公務員：50代女性）、家にいる時間が増えトレーニングや趣味の時間が増えた（その他職業：30代女性）、家族との交流が増えた（主婦：50代女性）、授業がオンラインに切り替わり時間を上手く使えるようになった（学生：20代男性）、ボランティア活動が停止になり辛かった。高齢者は友人と会うのが生きがい（無職：70代男性）などである。



(5) 地域別

～マイナス評価が多数の地域が大半だが、丹波、淡路ではマイナス評価が少ない～

- ・マイナス評価が多数の地域が多い中、丹波、淡路でマイナス評価が少ない点が目を引く。同じ多自然地域の但馬でマイナス評価が多いことから、感染者数の少ない地方部でマイナス評価が少ないというわけではなさそうだ。地域性によるものなのだろうか。
- ・全地域に共通して、マイナスの影響として外出自粛による外部との交流の減少、プラスの影響として読書や自宅の整理等を挙げた回答が多かった。中でも神戸や阪神地域など都市部ではボランティアなどの活動の中止の影響を挙げた回答が比較的多かった。
- ・神戸は「外出」「家」、阪神南は「活動」「中止」、阪神北は「趣味」「活動」、東播磨は「家」「外出」、北播磨は「趣味」、中播磨は「外出」「家」、西播磨は「時間」「外出」、但馬は「家」「過ごす」、丹波は「外出」「中止」、淡路は「自宅」「過ごす」についての回答が多かった。
- ・特徴的な回答は、読書や家の整理などができて有意義な時間を過ごした（神戸：60代女性）、ボランティア活動が停止、外出も困難となった（阪神南：70代男性）、時間に余裕ができ、家族と過ごす時間も増えた（阪神北：50代女性）、家で過ごすことが増えたので片付けを行うようになった（東播磨：40代女性）、趣味の講座が中止となり予定が空白に（北播磨：60代女性）、外出の機会が減り運動不足に（中播磨：40代男性）、外出制限のため自宅にいるか畑仕事をするしかない（西播磨：70代男性）、家で過ごしてばかりだが限界がある（但馬：30代女性）、外出が減ったが家の片付けができた（丹波：60代女性）、家で過ごす時間が増え、筋力トレーニングの時間が取れた（淡路：60代男性）などである。



(6) 主な回答と頻出語句

〈主な回答〉

<ul style="list-style-type: none"> <li>・旅行、映画、街歩きはしなくなった</li> <li>・新婚旅行に行けなかった</li> <li>・観劇、コンサート、旅行、友人との食事等がまったくできなくなった</li> <li>・映画館、美術館、図書館も利用できずストレスが大きい。ゴッホ展を観に行けず残念</li> <li>・県外の墓参りができなかった</li> <li>・行政関係のボランティア活動は全面停止。発想が短絡的で不要不急の定義がずれている</li> <li>・ボランティア活動のような街のために必要な活 ことまで自粛に追い込む政策はどうか</li> <li>・スポーツジムが中止で家に閉じこもり状態</li> <li>・自治会活動、ボランティア、図書館、ハイキング ができずストレスで何もする意欲がない</li> <li>・時間ができたのでゆったりと過ごすことができ、 イライラすることが少なくなった</li> <li>・片づけや、メンテナンスに時間ができた。家内と 今まで以上に話す時間ができた</li> <li>・映画鑑賞や観劇ができなくなったが自宅時間が 増え YouTube で音楽鑑賞、読書が増えた</li> <li>・普段やりたいと思いながら、時間に追われてで きていなかった片付け、断舍離ができた</li> <li>・自宅の片付けや読書の時間が増えうれしい</li> <li>・身の回りのことに手が回るようになったのは良 かった。貴重な時間だった</li> <li>・子どもたちとも旦那とも話す機会が多く、ゆっ たりと余裕をもって過ごせた</li> <li>・外出することが減ったが家で過ごすことも好き なのでテレビや読書等を楽しんだ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・のんびり過ごす時間が増え家族の時間という点 ではよいが、帰省等ができないのは困る</li> <li>・後回しにしていた読書や片付けなどに時間を気 にすることなく取り組めた</li> <li>・通勤時間が削減され自由時間が増え部屋の片付 けや趣味に時間をとれるようになった</li> <li>・スポーツジムに行けなくなったがその分散歩の 時間が増えた</li> <li>・外出機会が減り、その分、近所を散歩する時間 が増え、町を再発見</li> <li>・日頃しようとしてできなかった部屋や荷物の大 掃除などが可能になった。</li> <li>・早朝の散歩、庭の手入れ、部屋の片付けなどが できた。仕事を始めてから、これほど自分の時間 を持つことはできなかった</li> <li>・子どもと過ごす時間がたっぷり取れた。家族が これほど密に過ごせる日々はもうないのだろう と思うと貴重な時間</li> <li>・子どもとの時間をたくさん過ごすことができた</li> <li>・家にいることがほとんどになりとても運動不足</li> <li>・家の中は片付くが太った。食品以外はネットで 買っている</li> <li>・レジャー関連が全くできなかったがランニング の時間を多く取れた。</li> <li>・家の時間が増えトレーニングの時間が増えた</li> <li>・家庭で過ごす時間が増え、筋トレの時間がたっ ぷりとれた</li> <li>・趣味のランニングに時間を費やすことができた。 通勤しない分を走ることに充当できた</li> </ul>
---	---

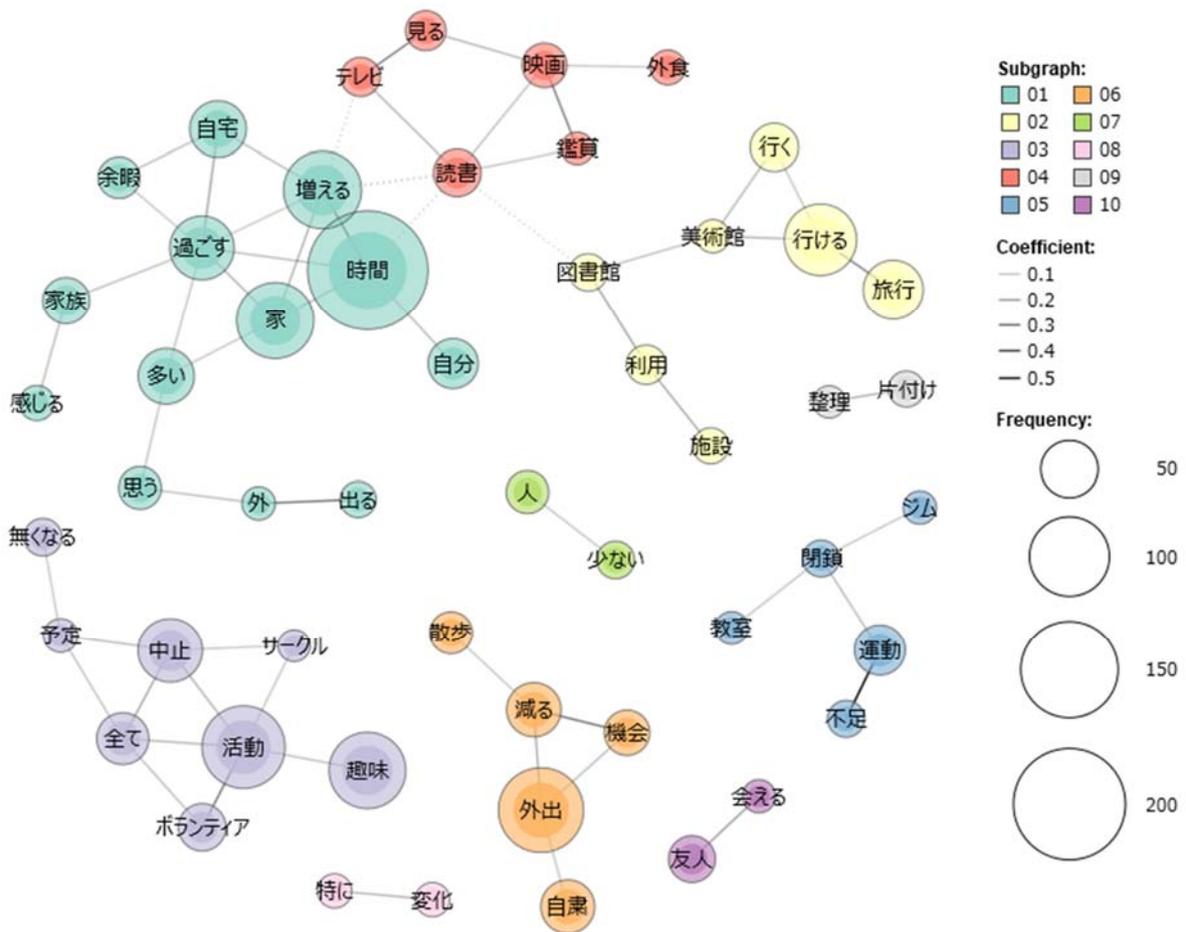
〈主な頻出語句〉

順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数
1	時間	232	6	趣味	92
2	外出	114	7	行ける	81
3	活動	108	8	過ごす	64
4	増える	95	9	中止	64
5	家	93	10	旅行	55

(7) 頻出語句の関係性

【頻出語句同士の関連】

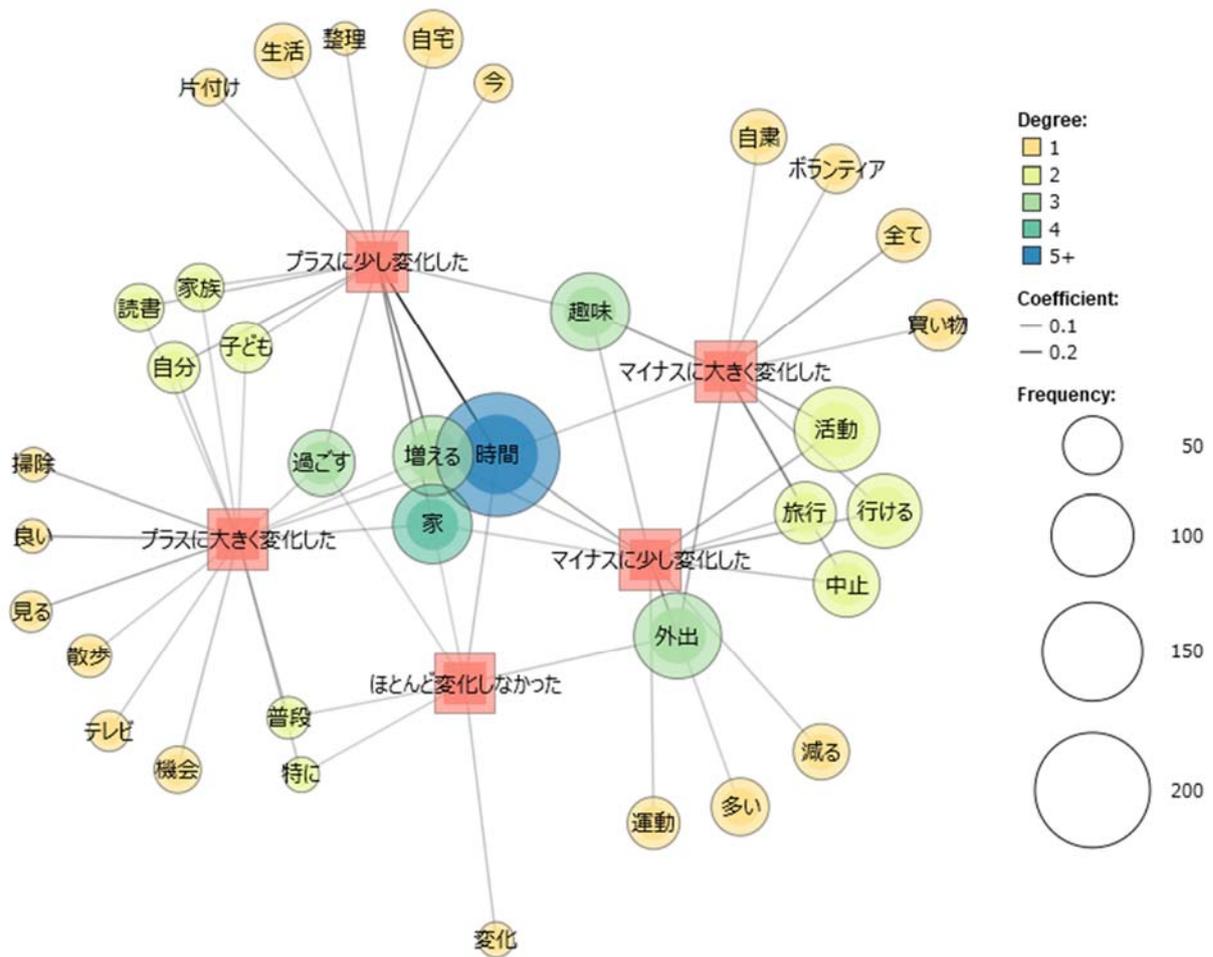
- ・単語のつながりを分類すると、外出制限（趣味やボランティア活動の中止等）と自宅時間の増加（テレビや読書時間の増加、片付け）への言及が多い。
- ・「時間」は「増える」「家」「過ごす」「読書」と関連しており、今回の事態を受けて家で過ごす時間が増加した様子が表れている。
- ・「外出」は「機会」「減る」「自粛」と関連し、「中止」は「サークル」「活動」「予定」「全て」と関連している。外出が自粛によって減少し、ボランティアやサークル活動が悉く中止となり、「旅行」や「美術館」にも行けなかった<sup>6</sup>様子が表れている。「運動」は「不足」と強い関連があり、自宅待機やスポーツジムの閉鎖などが運動不足につながっていると見られる。



<sup>6</sup> 「KH Coder」では活用のある語句はすべて終止形に変換して抽出される。『行ける』は「行け（ない）、行け（なかった）、行ける（場所がない）、行ける（ところがない）」といった否定的な文脈で使用されている。

### 【プラス・マイナス評価と頻出語句の関連】

- ・回答別に出現語句を分類すると、「マイナスへ変化」を選択した人は「外出」「ボランティア」「趣味」「旅行」「活動」「中止」と関連している。ボランティアや趣味の活動といった外部との交流・余暇活動が制限を受け、大きくマイナスに影響したことが分かる。
- ・「プラスへ変化」を選択した人は「読書」「家族」「子ども」「増える」「過ごす」と関連している。「掃除」「散歩」「テレビ」「片付け」「整理」とも関連し、外出制限により増えた自宅で過ごす時間を有意義に過ごしている様子が窺われる。
- ・外出制限は、県民の日常生活に総じてマイナスの影響を与えたが、読書や片付けなど、家で過ごす時間をうまく楽しんだ人も多かったと言えよう。



## 1-6 その他

### (1) 全体

～感染防止対策で生活が不便となる一方、オンライン会議ツール活用等で生活様式が変容～

- ・マスク着用に対する不便さ、入手困難についての回答が多数を占めた。マスクなしで話されると不快になり、袋詰めされていない食品を購入することへの不安の声も聞かれた。
- ・一方、マスクしていないと非国民のように見られる、自粛の同調圧力が異常といった声もあった。
- ・オンライン会議ツールなどの活用が生活の利便性を向上させている。離れた家族や友人との交流や稽古事、法事への活用の検討など、今回の事態を受けてデジタル化が普通の生活に浸透している。また外出制限により買い物を控えたため、ネット通販の利用が増えたとの声も多かった。自治体のウェブサイトが分かりづらく、ユーザビリティを考慮するよう求める声もあった。
- ・家族のあり方について、近くで暮らしながらもプライバシーを確保し、ほどよい距離感を保つことの重要性についての意見があった。
- ・教育の格差について、都市部や私学でオンライン授業が進む一方で、郡部や公立学校での対応の遅れを感じるといった懸念の声が聞かれた。

### (2) 主な回答と頻出語句

#### 〈主な回答〉

<ul style="list-style-type: none"> <li>・離れた家族や友人とオンラインで交流ができるようになった</li> <li>・情報収集にかかる時間が増えた。パソコンやネット環境を整備する必要があると感じた</li> <li>・買い物はネットでの注文が増えた</li> <li>・集合してのお稽古ができず、オンラインでするようになった。できることが増えてうれしい</li> <li>・オンラインのテレビ会合を覚えた</li> <li>・ネットを使用して学習することが増えた</li> <li>・仲間との会合で出かけることがなくなり、飲み会はオンラインで実施中</li> <li>・現役世代のテレワークに倣いシニア仲間とリモートミーティングにトライしている</li> <li>・会合をオンラインで行うようになった。インターネット時代の到来を感じる</li> <li>・資格取得のための講座がオンライン授業となり便利さがわかった</li> <li>・阪神・淡路大震災時と同じく他職種や地域との人間関係や連携がより深まった</li> <li>・忙しくてできなかった家の片付けができた。今回の事態で気づいたことは今後の生活に反映していきたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナのニュースばかりで気が滅入る</li> <li>・体質的にマスクを着用するのが非常に辛いのだが「マスクをしていなければ非国民」とでもいうような風潮があって苦しい</li> <li>・食料調達が必要だが、外出が必要悪になり、周りの視線が気になった</li> <li>・テレビ等の「自粛」が過度に感じる</li> <li>・街の雰囲気は暗くゴーストタウンのよう。自粛、自粛の全体主義と同調圧力。異常だった</li> <li>・自治体のサイトを見ることが増えたが、わかりにくい。情報を載せるだけではなくユーザビリティを考える必要がある</li> <li>・国の方針を踏まえた県の方針をもっと強力に出してほしい</li> <li>・手を洗う回数、消毒の回数が増えた。マスクなしで出かけなくなった</li> <li>・マスクが不便を感じる</li> <li>・手洗い、うがい、マスク着用などを徹底して、三密にならないように、とにかくコロナに感染しないことを何より優先するようになった</li> <li>・マスクが不足し購入に朝早くから走り回ったが買うことができなかった</li> </ul>
---	---

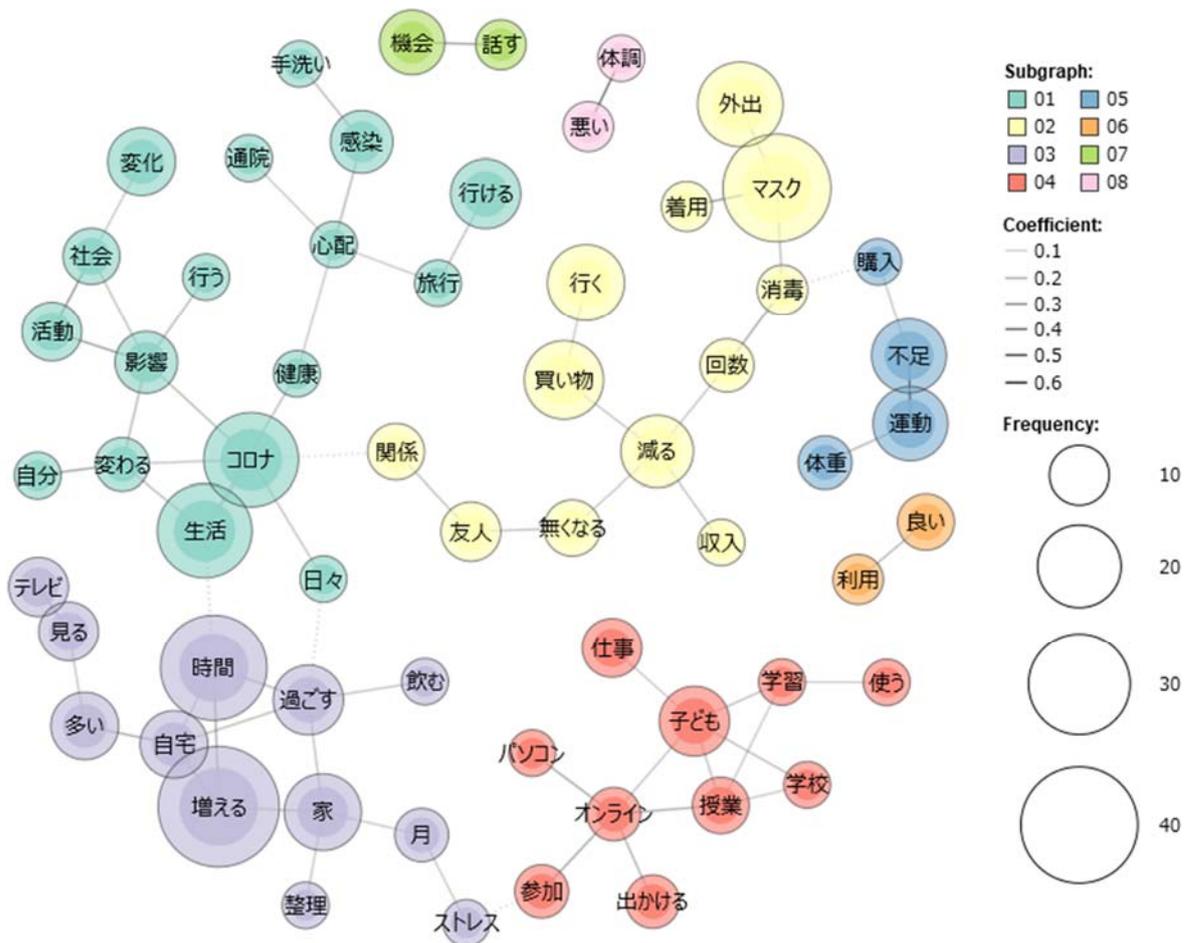
<ul style="list-style-type: none"> <li>・趣味の会議にアプリを使ってオンラインで参加した。顔が見ることができ便利で東京の孫との我が家の法事でも使おうか検討中</li> <li>・都会の子はオンライン授業があると聞いたが、田舎はなかなかうまくいっていない</li> <li>・子どもの教育格差を感じた。私学はオンライン授業などどんどん取り入れられていたが、公立はオンライン授業が難しく差が開く。また家で学習できない子、親が学習を見ることができない子の問題がますます大きくなった</li> <li>・家族は近くで暮らしてほどよい距離感を保つことが必要。家族にもプライバシーがあり、適切な関係性を考えさせられた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マスクなしで話されるととても不快な気分になるようになった。袋詰めされていない食品を買うのに不安を感じるようになった</li> <li>・ほとんどの人がマスクを付けるようになったことは良いことだ</li> <li>・マスクを付けての外出はやむを得ないが慣れない</li> <li>・消毒用アルコール、マスクなど購入しなければならないものが不足。購入・装着できず他人の目も気になった</li> <li>・マスクをすることが最低のマナーとなった</li> <li>・マスクは全て公平に売ってもらいたい</li> </ul>
--	--

〈主な頻出語句〉

順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数
1	増える	43	6	外出	21
2	マスク	34	7	買い物	18
3	時間	33	8	家	17
4	コロナ	26	9	行く	17
5	生活	26	10	運動	16

(3) 頻出語句の関係性

- ・単語のつながりを分類すると、マスク着用や感染対策、外出の機会の減少、自宅時間の増加やオンライン授業など生活様式の変容への言及が多い。
- ・「マスク」に関連して「外出」「着用」「消毒」といった語句が並び、外出に当たってのマスク着用等の負担が増えたことが表れている。「時間」には「自宅」「増える」「過ごす」が関連し、自宅で過ごす時間が増えてテレビの視聴や家の整理を行っているほか、運動不足となっている様子も窺われる。
- ・「コロナ」には「影響」「健康」「生活」といった語句が関連し、社会生活への影響、感染への懸念が表れている。
- ・「子ども」には「学校」「授業」「オンライン」「学習」といった語句が関連し、今回の事態を受けてオンライン授業などの取組に関心が高まった結果と言える。



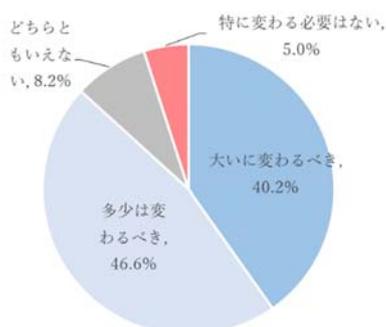
## 問2 社会のあり方

※「問2-1 今回の事態を受けて、社会のあり方は変わるべきだと思うか（選択）」と「問2-2 特に変わる必要があると思うものは何か。何について、どのような方向に変わるべきか（自由記述）」の結果を一括で整理

### (1) 全体

(選択) ～回答者の約9割が社会は「変わるべき」と回答～

- ・今回の事態を受けて、社会のあり方は変わるべきかを4択で聞いたところ、「大きく変わるべき」が全体の40.2%、「多少は変わるべき」が46.6%を占めた。回答者の約9割（86.8%）が「変わるべき」と回答したことになり、今回の事態が私たちの社会の様々な課題を炙り出した様が窺える。



選択肢	回答者数	構成比
大いに変わるべき	503	40.2%
多少は変わるべき	582	46.6%
どちらともいえない	103	8.2%
特に変わる必要はない	62	5.0%
	1,250	

(自由記述) ～変える必要があるのは私たちの「働き方」との意見が最多～

- ・全体で2,270件の回答があった。回答内容を項目別に分類すると、最も回答が多かったのは「働き方」の477件（全体の21.0%）で、以下表のとおりである。

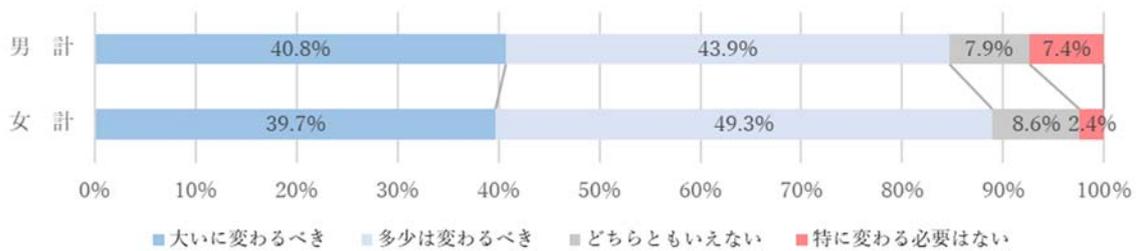
順位	項目	件数	構成比	順位	項目	件数	構成比
1	働き方	477	21.0%	8	産業構造	103	4.5%
2	感染症対策	353	15.6%	9	価値観	81	3.6%
3	政治・行政	275	12.1%	10	通信環境	45	2.0%
4	教育	243	10.7%	11	福祉・介護	38	1.7%
5	生活様式	157	6.9%	12	情報公開	34	1.5%
6	医療体制	145	6.4%	—	その他	191	8.4%
7	人口集中	128	5.6%		計	2,270	

- ・回答最多数の「働き方」では、テレワークを前向きに捉え、定着を願う声が多数を占めた。
- ・「感染症対策」では、手洗い・うがいの励行や感染症の正しい知識の普及のほか、地震・風水害対策並に感染症対策にも力を注ぐべきとの意見が多かった。
- ・「政治・行政」では、行政の組織運営や事務処理の抜本的改革を求める声が多数寄せられた。特に行政のIT化の遅れを指弾する意見が多かった。
- ・「教育」では、オンライン化で学校教育のあり方が変わることに期待する声が多い一方、教育格差をどう解消するのかという声もあった。
- ・「生活様式」では、仕事中心のライフスタイルを見直すきっかけになったといった声が多かった。
- ・「人口集中」では、都市から地方への人口分散をこの機に進める機会とする一方、実効性のある手立てがなければ大都市への人口集中は今後も続くとの声も聞かれた。

## (2) 男女別

～女性の方が「社会は変わるべき」との思いが強い。特に「働き方」の変革への期待が高い～

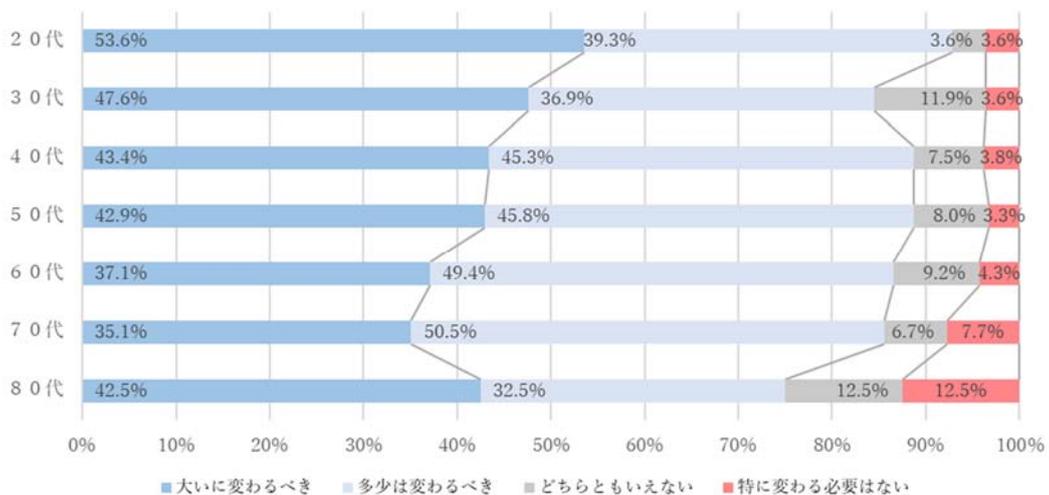
- ・男性は「大いに変わるべき」と「多少は変わるべき」を合わせて84.7%、女性は同89.0%となり、男女とも社会は変わる必要があると考えている中でも、女性の方がより強く社会は変わる必要があると考えていることがわかった。
- ・変わる必要があるものとして最多の477件の意見を集めた「働き方」では、うち268件(56.2%)が女性の意見で、男性の209件(43.8%)より多かった。テレワークや時差出勤の常態化を求める声が男性より多い。



## (3) 年代別

～全年齢層で「社会は変わるべき」が多数。60代以降の世代も働き方の変革が必要と主張～

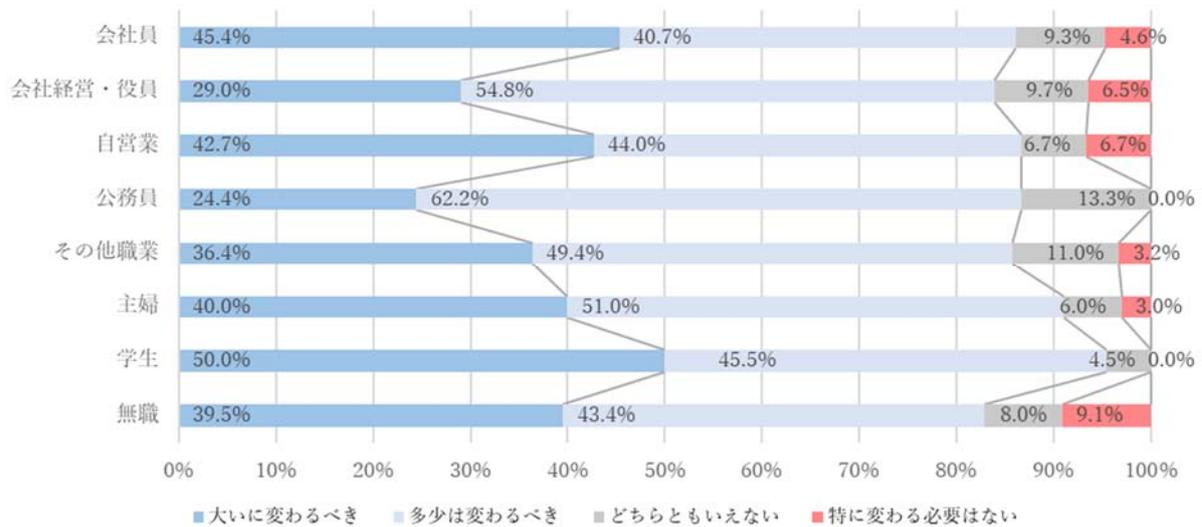
- ・全年齢層で「社会は変わるべき」が多数を占めた。割合の最高は20代の92.9%、最低は80代の75.0%、その他の年齢層はすべて80%代である。「大いに変わるべき」に着目すると、若い世代ほど割合が高く、若い世代ほど社会は変わるべきとの強い思いを持っていることが窺われる。
- ・現在の社会の中核を担っている層(40代～60代)、あるいは人口の最大のボリュームゾーン(70代、40代)、いずれの側から見ても、社会は変わるべきと考える人が多い。
- ・変わる必要があるものとして最多の477件の意見を集めた「働き方」において、これまでの日本の働き方を形作ってきた60代、70代、80代からも、在宅勤務の拡大などもっと自由な働き方があるってよいはずだとする意見が多かったことも注目される。



(4) 職業別

～全職種で「社会は変わるべき」が多数。懸念は「公務員」や「会社経営・役員」の慎重姿勢～

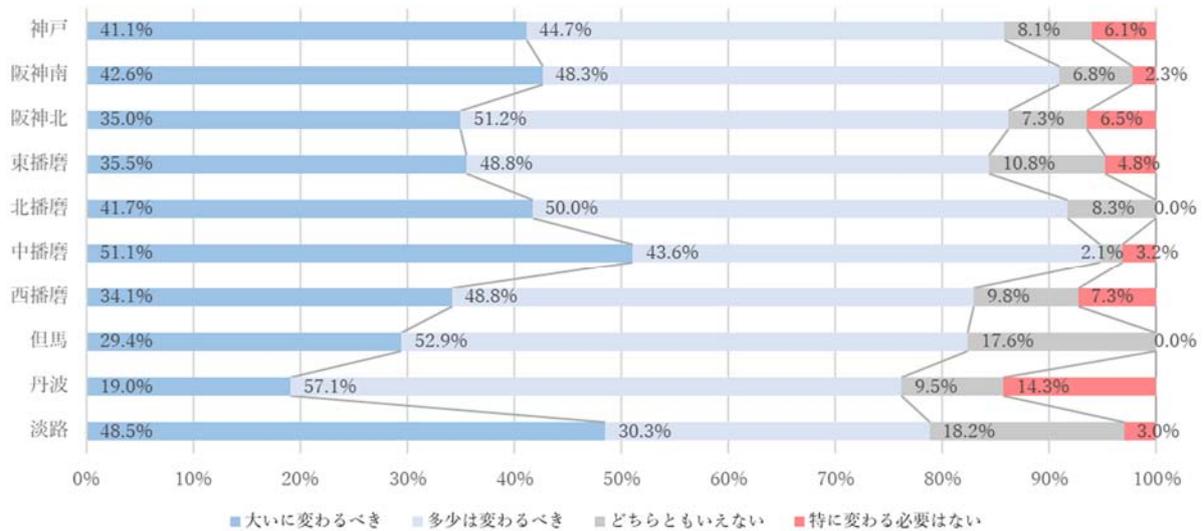
- ・無職を含むすべての職種で「社会は変わるべき」が多数を占めた。割合の最高は学生の95.5%、無職を除いて最低は会社経営・役員の83.8%であり、その他の職種はいずれも80%代である。
- ・「社会が変わるべき」が多数を占める中で、職種によって「大いに変わるべき」と「多少は変わるべき」の比率に差がある点が興味深い。「大いに変わるべき」の割合が他に比して大きく低い職種が2つあり、それが「公務員」(24.4%)と「会社経営・役員」(29.0%)である。
- ・どの職種でも「働き方」への意見が多かったが、職種別に特徴も見られる。最も回答者数が多い「主婦」では「教育」に関する意見が比較的多かった。前代未聞の休校措置を受けて学校教育への不安、不満を募らせる姿が浮かび上がる。次いで回答者数が多い「会社員」では「政治・行政」に関する意見が比較的多かった。行政の受け身の姿勢やIT化の遅れが厳しく指摘されている。



(5) 地域別

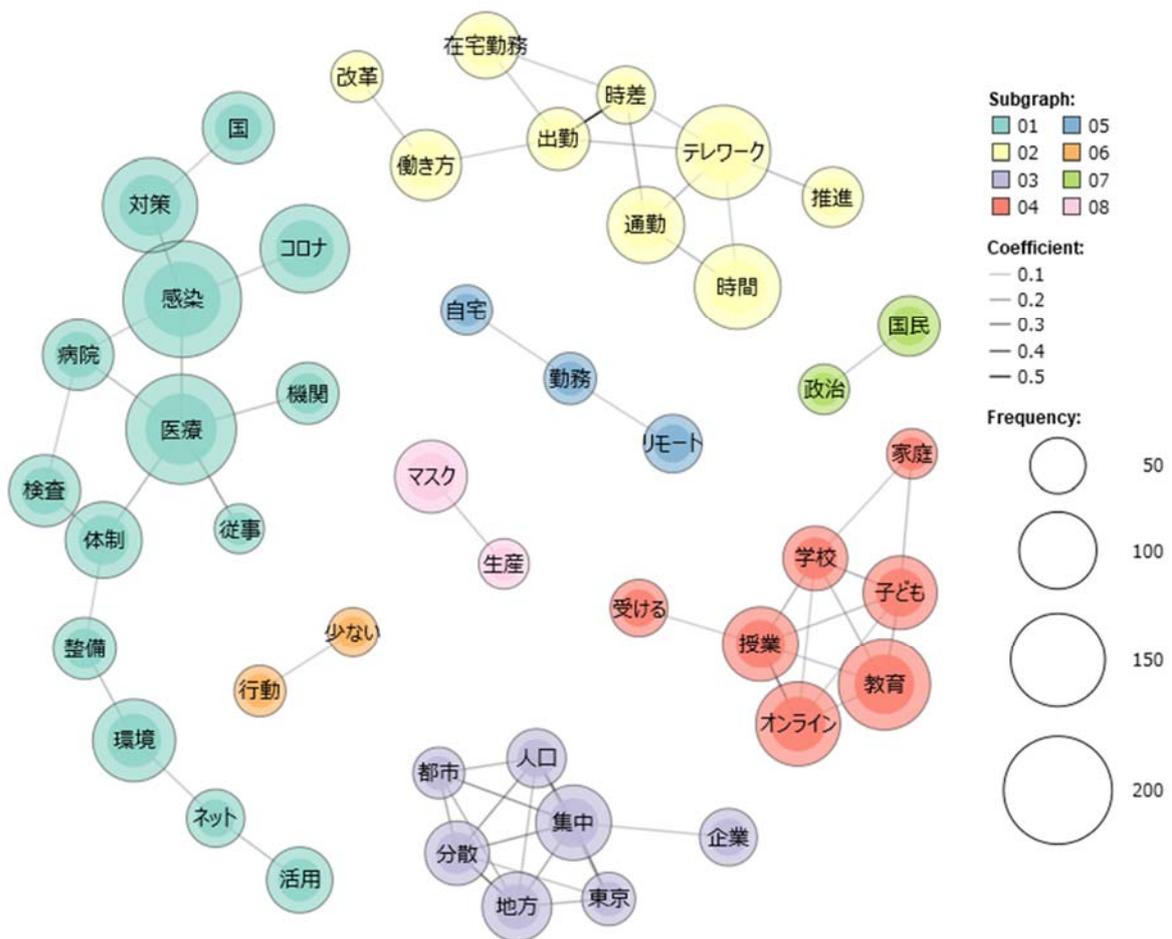
～全地域で「社会は変わるべき」が多数。ただ、地域差も見られる～

- ・全地域で「社会は変わるべき」が多数を占めた。最高は中播磨 94.7%、最低は丹波 76.1%である。
- ・「社会は変わるべき」と思う人は総じて都市的地域で多く、西播磨、但馬、丹波、淡路など、多自然地域で少ない傾向が窺われる。ただし、「大いに変わるべき」の割合に着目すると、丹波(19.0%)、但馬(29.4%)は低い一方で、淡路(48.5%)は非常に高くなっており、差が顕著である。
- ・自由記述については、地域別に明確な特徴を読み取ることはできなかった。いずれの地域においても多い意見はやはり「働き方」に関する意見で、テレワークの定着や毎日出勤する必要のない働き方への変革を求める声が、どの地域からも上がっている。



(6) 頻出語句の関係性

- ・自由記述における単語のつながりを分類すると、主に働き方（テレワーク、在宅勤務等）、感染症対策（医療、コロナ等）、教育（オンライン授業等）、人口集中（分散、地方等）といったグループに関連した言及が多い。
- ・「働き方」を中心とするグループは「時差」「出勤」「在宅勤務」「テレワーク」「通勤」の関連が強く、テレワークの定着など働き方改革の推進が望まれている。
- ・「感染」を中心とするグループは「医療」「病院」「コロナ」「検査」「体制」「整備」の関連が強く、感染が続く新型コロナへの早急な対策が必要であることが窺われる。
- ・「教育」を中心とするグループは「オンライン」「授業」「子ども」「学校」の関連が強く、今回の事態を受けてオンライン授業の普及の必要性が高まっていると考えられる。
- ・「人口」を中心とするグループは「集中」「都市」「分散」「地方」「東京」の関連が強い。東京へ人口の一極集中リスクと、地方への人口分散について関心が高まっている。



(7) 自由記述の読み解き

- ・回答の多い項目順に各項目の回答内容の傾向を読み解く（上表の12項目＋その他）。

① 働き方

- ・在宅勤務について、初めて経験した人が多かったはずだが、前向きに捉え、定着を願う声が非常に多かった。3密回避の手段に止まらず、通勤をなくし、暮らしの幅を広げる新しい働き方として、テレワークに多くの県民が期待している様子が窺われる。
- ・一方、テレワークの困難な職種があることや、リテラシー不足等から取り残される人への配慮も必要とする声もあった。
- ・時差出勤、フレックスタイム、時短勤務の一般化や副業の解禁を求める声も多数寄せられた。これまで普及していなかった新たな働き方がこの機に広がることが期待されている。
- ・本問で「働き方」に多数の意見が集まったのは、コロナ禍を通じて、働き方が自分の生活を規定していることを再認識した人が多かったためと考えられる。

〈主な回答〉

<ul style="list-style-type: none"><li>・出勤ありきでない働き方があることがわかった</li><li>・子育て中の娘が在宅勤務になり、子育て世帯にはリモートワークが望ましいことがわかった</li><li>・通勤時間を無駄に感じるようになった</li><li>・リモートワークと時差出勤の流れを止めず、問題点を解決しつつ浸透させていってほしい</li><li>・リモートワークを推し進めることで、都会への人口集中を緩和することができるはず</li><li>・都市部に社屋を集中させ、そこに大量の労働者を集める方式を改めるべき</li><li>・一斉通勤、一斉休日の習慣を改めるべき</li><li>・在宅勤務を基本にして、通勤に使っていた時間でボランティア活動をするようにしてほしい</li><li>・オンライン会議の活用を進めるべき</li><li>・無駄な会議や出張をオンライン化で削減すべき</li><li>・はんこを廃止すべき</li><li>・副業が簡単にできるようにしてほしい</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・テレワークの副作用が必ず出てくるはず。それにうまく対処していく必要がある</li><li>・リモートワークの導入は必要だが、それから取り残される人のフォローも大切</li><li>・時間、場所にとらわれない仕事のあり方を社会全体で作り上げていく必要がある</li><li>・人は群れる習性があり、群れることで社会が発展してきた。適度な密度は維持すべき</li><li>・週5日8時間労働は長すぎる</li><li>・労働時間が長い割に成果が出ないのが問題</li><li>・営業時間の短縮化は良い流れなので、コロナ収束後にすべて元に戻らなくてよい</li><li>・零細企業や派遣労働者にしわ寄せが行った。大企業、公務員との格差を縮めてほしい</li><li>・非正規労働者や個人事業主が特に不安を感じたはず。十分点検し、今後に活かしてほしい</li><li>・今の日本は従来やり方に固執する傾向がある</li></ul>
---	--

② 感染症対策

- ・手洗い・うがいの励行、感染症に関する正しい知識の普及、マスク等の備蓄、更には感染症のリスクに配慮した生活習慣の形成など、県民の日頃からの備えの大切さを指摘する意見が多かった。
- ・行政が全体に準備不足で、対応が後手に回ったとの指摘も多く聞かれた。多額の資金を投じている地震・風水害対策並に感染症対策にも力を注ぐべきとの意見が多く、国、県、市町の体制整備と役割分担、対策の基準設定、施設整備、物資の備蓄を求める県民が多かった。
- ・ワクチン・治療薬の早期開発、検査体制の抜本的な拡充、保健所の機能強化を望む声も多かった。
- ・活動自粛のマイナス面にもっと留意すべきとの声も聞かれた。

### 〈主な回答〉

<ul style="list-style-type: none"><li>・ワクチン・治療薬の早期開発が必要</li><li>・感染症は災害と認識すべき。地震対策のように即対応できる体制を国、県、市で整備すべき</li><li>・地震・風水害では何百年に一度の災害への対応策（主にハード対策）が進んでいる。感染症対策でも同様の水準で事前の備えを講じるべき</li><li>・米国の CDC（疾病対策予防センター）並みの独立した権限を持つ専門機関を設置すべき</li><li>・保健所を減らしてきたのが裏目に出た。保健所の体制を立て直す必要がある</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・感染症の正しい知識を身につける教育が必要</li><li>・検査体制の拡充が最優先の課題だ</li><li>・一定の強制力を行使できるよう法整備が必要</li><li>・緊急事態宣言の解除理由が理解できなかった</li><li>・やり過ぎはよくない。活動をやめることとその弊害を秤にかけて対応すべき</li><li>・具体的な基準を明確にしてほしい。本当にこれほどの自粛が必要な病気なのかと未だに疑問</li><li>・ある程度プライバシーを犠牲にした方策を考える必要がある</li></ul>
---	--

### ③ 政治・行政

- ・国や県の採った対策の根拠が分りにくい、場当たりのだといった批判の声が数多く聞かれた。
- ・国・自治体の IT 化の遅れを厳しく指弾する意見や、IT 化による行政事務の抜本的な改革を求める意見が多数寄せられた。また、マイナンバーが有効に機能していないとの批判も多かった。
- ・非常時の首長のリーダーシップに期待する声が多い半面、その点に関する批判的意見も多かった。

### 〈主な回答〉

<ul style="list-style-type: none"><li>・行政事務が旧態依然で何も変わっていないことを痛感。申請主義やはんこ、紙ベースで仕事をすることにいつまでこだわっているのか</li><li>・あらゆる手続のオンライン化を進めるべき</li><li>・マイナンバーカードを住基カードの二の舞にしてはならない。取得を義務化し、徹底活用すべき</li><li>・マイナンバーと口座番号の紐づけを急ぐべき</li><li>・行政はもっと旗振り役であるべき。自ら ICT を徹底活用し、民間に範を示してほしい</li><li>・ネット社会を先導するのが自治体の大事な役割。プライバシーに配慮しつつ膨大な情報を活用して市民生活の質を高める取組を進めてほしい</li><li>・行政事務のアナログさに驚愕。公務員だけでは進まないで、民間と共同で改善を進めるべき</li><li>・できるだけ対応をしているのかもしれないが行政の対応の遅さ、動きの鈍さが目に付いた</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・クーポン券を配る施策は無駄が多く時代遅れ。経済的支援は現金の口座振込を基本にすべき</li><li>・アベノマスク、一律 10 万円の給付金など、場当たりのやっているようにしか見えない</li><li>・地方議員は何をしていたのか知りたい</li><li>・国より自治体の方が役に立つことがわかった。地方行政に権限、財源をもっと分散すべき</li><li>・ネットで選挙できるようにすべき</li><li>・兵庫の対応が大阪の後追いの印象しか残らなかったのが残念</li><li>・京阪神のスタンダードを県全域に一律適用するのは乱暴。地域に合わせた対応をすべきだった</li><li>・首長のリーダーシップで対応に大きな差が出ることがわかった</li><li>・テレビで見た知事の発言が揚げ足取りや皮肉が目立ち、頑固な感じで残念だった</li></ul>
--	--

### ④ 教育

- ・オンライン化で学校教育のあり方が変わることに期待する声が非常に多かった。教育の問題について、多くの県民が考える契機になったことが窺われる。
- ・学校教育のオンライン化は、学校に行きづらい子どもの救済になるとの見方がある一方で、教育格差を助長するので、公平公正な教育環境をどう担保するかが課題になるとの意見も聞かれた。

- ・9月入学の検討は当面先送りされたが、日本人の国際化を進める観点から改めて真剣に検討すべきとの意見も多く聞かれた。また、一斉入学の必要性自体が薄れてきているとの指摘もあった。

#### 〈主な回答〉

<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面一斉授業と合わせてオンライン授業も増やしていくべき</li> <li>・学校のIT化を徹底的に進めるべき。そのための教員の資質向上も必要</li> <li>・オンライン化により、これまで不十分だった各人の能力に合わせた指導ができるようになる</li> <li>・家庭に依存した教育のオンライン化は教育格差を助長する可能性がある。教育の機会と環境の平等をどう確保するのが問題</li> <li>・所得格差が教育格差を生み、格差が固定化する構造をどう変えるかが大きな問題</li> <li>・地域や家庭で格差が生じないように、子どもの公平公正な学習環境を整えるのは国の責務</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生一人ひとりにタブレットを配布し、積極的にオンライン授業をやっていくべき。昔からのやり方にこだわる必要はない</li> <li>・授業はできるだけオンライン化した方が子どものためになる</li> <li>・社会性を育てる場として依然学校は必要</li> <li>・9月入学への変更を真剣に検討すべき</li> <li>・一斉入学・一斉授業の一律的なカリキュラム自体を見直すべき時期に来ている</li> <li>・登校とオンラインを選択できるようにすべき</li> <li>・この機会に受験のための詰め込み教育を改めてほしい。そのためには教師の意識改革も必要</li> <li>・幼児期の教育にもっと税金を使うべき</li> </ul>
---	---

#### ⑤ 生活様式

- ・仕事中心、仕事優先のライフスタイルを見直すきっかけになったとの意見が多く聞かれた。
- ・Stay Home の経験を通じて、余裕を持ってゆったり暮らすことの大切さに気付いた人も多くいた。家での食事の大切さや、一人で楽しめる趣味を持つことの重要性を指摘する意見も聞かれた。関連してコンビニエンスストアの24時間営業やスーパーの長時間営業は不要との意見も聞かれた。
- ・無駄な付き合いの時間や余計な買い物の多さに気付いたとの意見も多かった。簡素な生活を心がけながら、内面の充実による豊かな暮らしを志向する人が増える兆しが窺われる。
- ・現金の使用を減らす意味で、この機にキャッシュレス決済を普及させるべきとの意見も多かった。

#### 〈主な回答〉

<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン化が進むことで、時間の使い方が変わり、ライフスタイルが変わる</li> <li>・コロナと共存する意味でも、働き方を含めた生活習慣を変えていく必要がある</li> <li>・無駄な時間、付き合い、金銭面、全てにおいて地味な生活に徹すべきではないかと再認識した</li> <li>・今まで考えられなかった時間の過ごし方を経験した。仕事優先でないライフスタイルを考えるよいきっかけになった</li> <li>・会社や学校ありきではなく、どこにいても働き、学べる環境が必要</li> <li>・働き方を含めて、もっとゆとりをもった人生が送れるようになるべき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時差出勤、時差通学を定着させてほしい</li> <li>・皆同じでないといけない雰囲気から解放され、個々人に最適な過ごし方が浸透すればよい</li> <li>・家でストレスを発散できず、家庭でトラブルになっている人もいる。一人ひとりが自分に合った時間の使い方を考える必要がある</li> <li>・一人で楽しめる趣味を持つことが大切</li> <li>・商業的コマーシャルで踊らされている買い物などを見直すには良い時期</li> <li>・コンビニの24時間営業は必須ではない。他の業種も夜間営業は縮小すべき</li> <li>・現金以外での支払いが当たり前になってほしい</li> <li>・早く元に戻ってほしい</li> </ul>
---	--

⑥ 医療体制

(感染症対策に関する意見は「感染症対策」へ分類し、それ以外の医療に関する意見を本項に分類)

- ・医療の重要性と、普段から十分に余裕を持った体制を整えておく必要性を説く意見が多かった。
- ・その一方で、不要不急の外出を控える動きの中で来院者が減った病院が目立ったことから、本来行かなくても済む人が大勢通院している現状を改めて認識したという意見が多く聞かれた。本当に必要な人に必要な医療を届けるためには、無駄な医療を減らす必要があると考える人が多かった。
- ・オンライン診療の普及など、病院に行かずに医療を受けられる環境の整備を求める声も多かった。

〈主な回答〉

<ul style="list-style-type: none"> <li>・有事の際は結局現場の医療機関が自分で何とかするしかない状況になる。元々からの人員不足を改善することが最優先の課題だ</li> <li>・普段は無駄だと思われても、常に余裕を持った状態にしておくことが危機への備えだ</li> <li>・オンライン診療を普及させてほしい</li> <li>・リモートで診療・調剤ができないか。高血圧の薬をもらうために月1回病院に行かないといけなが、全くの時間の無駄なので</li> <li>・病院に行かずに医療を受けられる環境を作ってほしい</li> <li>・少子高齢化が進むのでこのままでは破綻する。過剰な受診の抑制など合理化を進めるべき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院間の連携を強化すべき。まず必要なのはカルテなど患者情報の一元管理。病院間で人手の過不足を調整できるようにすることも必要</li> <li>・感染を恐れて受診する人が減った。病院に行かなくても済む人が大勢いたということで、医療費削減のためには逆に良かった</li> <li>・通院者が激減したが、本当に必要な通院か考える良い機会になった。本当に必要な人が必要な医療を受けられるようにすることが大事</li> <li>・医療と福祉を一緒に考える必要がある。柔軟な制度にして無駄をなくしてほしい</li> <li>・医療が脆弱な地域での公的医療の充実に努めてほしい</li> </ul>
---	--

⑦ 人口集中

- ・密＝危険という認識から、人が集まる都市で生活することをリスクと感じる県民が増えた。東京一極集中の是正、都市から地方への人口分散をこの機に進めるべきとの意見が多く聞かれた。
- ・テレワークの有効性に気付いた人が多かったこともこのコロナ禍の特徴である。否応なくせざるを得なくなった人が多いにせよ、テレワークで意外と仕事ができることがわかり、職場に通うためだけに都市に集まり住む必要性は薄れていることに多くの人が気付いたと思われる。
- ・一方で、大都市への人口集中は今後も続くとの声も聞かれた。首都直下地震が発生すると言われながら、東京一極集中の現状は変わっていない。地方創生も掛け声に終わっている。実効性のある手立てを講じない限り、地方分散は進まない。こうした冷静な認識を示す意見も見られた。

〈主な回答〉

<ul style="list-style-type: none"> <li>・今こそ地方分散を進めるべき。都市に集中している企業、行政、大学を地方に分散させること</li> <li>・東京に集中し過ぎ。首都機能の分散を図るべき</li> <li>・都市への人口集中の危険性に改めて気付いた。まずは政府機関の地方分散を進めるべきだ</li> <li>・東京にいなくてもできる仕事がたくさんあることがわかった。人口を分散するチャンスだ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくりの方向性を、駅近にマンションを建てて人口を集中させる方向から、広い地域に分散して居住する方向に転換する必要がある</li> <li>・テレワークで通勤日を減らすことがまず必要</li> <li>・かねてより地方分散の話はあったが、全く進んでいないことが明らかになった</li> <li>・疎＝安全安心と感じる社会になるのでは</li> </ul>
---	--

<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京一極集中を是正するため、大阪空港を廃港にして副首都を整備してはどうか。空港は関空と神戸があれば十分対応できる</li> <li>・都心部に職場が集中しているので、満員電車での通勤や都市部への人口集中が起こる。リモートワークが広がれば、この問題は解消される</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地方分散が望ましいと思うが、地方では車がないと生活できない。車を運転しない人がストレスなく利用できる交通手段を整える必要がある</li> <li>・郊外のオールドニュータウンを再生させる好機</li> <li>・住みたい場所に住んで仕事ができる社会になってほしい</li> </ul>
--	--

## ⑧ 産業構造

- ・マスクが入手困難になった経験から、生活必需品の生産を海外へ依存することを問題視する意見が多かった。調達先を特定の国から分散化するなどサプライチェーンの見直しや、パンデミックの再発を前提に、必要物資を国内で生産できる体制を敷いておくべきとの意見が多く聞かれた。
- ・産業分野に関しては、飲食等の対人サービスや観光は、数年は元に戻らないことを前提に業態転換を図るべきとの意見があった。食料自給率の向上を図る観点から農業にもっと力を入れるべきとの意見や、社会インフラとしてますます重要になる IT 産業を育成すべきとの意見もあった。

### 〈主な回答〉

<ul style="list-style-type: none"> <li>・サプライチェーンの見直しが必要。コストばかりを優先して特定の国に依存しすぎた。国内への生産回帰と調達ルートの分散化が必要</li> <li>・今までインバウンドに頼りすぎていた</li> <li>・内需に軸足を置いた産業構造への転換が必要</li> <li>・食料自給率を高める必要がある。農業にもっと力を入れるべき</li> <li>・産業が全体的に IT 化しないといけない</li> <li>・IT 産業の育成が必要。IT を駆使して経済の新しい発展方向を考えるべき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光や、外国人労働者の多い業種は数年元に戻らない前提で違う道を探さないといけない</li> <li>・飲食店の経営を考え直す必要がある。行政に支援を求めるだけでは限界がある</li> <li>・飲食とエンターテインメント関係は、どのようにシフトするか当事者以外も含めて検討が必要</li> <li>・インフラ以外の深夜営業はやめるべき</li> <li>・行政は中小企業の支援を今以上にやるべき</li> <li>・行政による財政的な支援は次第に難しくなるので、徹底した規制撤廃を進めるべき</li> </ul>
---	--

## ⑨ 価値観

- ・今回の事態は、社会の中に自分と違う感じ方、考え方をする人がたくさんいることを知る良い機会になったことが窺われる。いろいろな考え方があってよい、自分と異なる価値を持つ人への理解を深めていきたい、多様な価値が認められる社会であってほしいといった意見が多く聞かれた。
- ・社会に潜む不寛容が露見したのも今回の特徴である。「自粛」を押し付ける同調圧力や横並び意識の強さ、行政依存、ゼロリスク思考など、冷静に日本社会の弱点を突く意見も多く聞かれた。
- ・幸せとは何かといった普段考えないことを考える機会になったとの意見も聞かれた。

### 〈主な回答〉

<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の価値の押し付けをなくし、異なる価値を持つ人への理解を深める必要がある</li> <li>・人それぞれに考え方が違う。神経質な人もいれば、何も気にせず自由にしている人もいる。度を過ぎて人の迷惑になることは避けたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他人と横並びにならないと満足しない人が多い</li> <li>・日本人に多い「ゼロリスク」思考を改める必要がある。不確定な情報しかない中でベストと考えられる対応を行い、それが正しくないことがわかれば速やかに変更するという態度が必要</li> </ul>
---	--

<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体が一つの方向に動き、他の意見はつぶされる。同調圧力と全体主義はこうして形成されるのだなと思った。誰もが自分は正しいと思いながら、全体としては間違った方向に進んでいるようで非常に怖いと思った。</li> <li>・役所に文句を言うのが正義だと思っている人が多いと感じた。もう少し前向きな意見がほしい</li> <li>・あまりに何でも行政に頼る空気が気持ち悪い</li> <li>・もっと人に優しい社会になってほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・固定観念に囚われて生活していたことに気付いた。もっと自由に生活スタイルも人生設計も考えてよいのだと思う</li> <li>・世の中のルールが形式的に作られすぎているように感じる</li> <li>・無駄に出勤し、仕事をしているフリをしなくてもよくなるようになってほしい</li> <li>・人間本来の幸せって何なのかを考えるようになった。まず安全に暮らせることがスタートだ</li> </ul>
--	---

#### ⑩ 通信環境

- ・高速で安定した通信環境の重要性を思い知る機会となった。急にテレワークを始めたことにより、自宅の通信環境の脆弱性に気付いた人も多く、通信環境の改善を望む声が多く聞かれた。
- ・パソコンやスマートフォンを使える人とそうでない人の間で情報格差が更に広がることを懸念する声も多かった。特に高齢者をきちんとサポートする必要があるとする意見が多く聞かれた。
- ・今後社会のデジタル化が加速し、良質な通信環境を持つことが一層重要になると考えられるが、民間の通信サービスの利用料が高額で、家計を圧迫している現状も窺える。全国民が安価に使える通信環境は、生活に必須のライフラインとして、国が整備を進める必要があるとの意見も多かった。

#### 〈主な回答〉

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットを活用して密を避けて効率よく生活できるようにすることが大事</li> <li>・娘が在宅勤務になったが、ネット環境の不備でなかなか軌道に乗らなかった</li> <li>・高齢者が置いてきぼりになりそうだ。高齢者も扱えるようにしないといけない</li> <li>・日常生活に必須のものになり、高齢者も使わないとやっていけない社会になる。誰でも使える方法を開発する必要がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報システムのありがたさが身に沁みだ</li> <li>・今やライフラインの一つなのに通信料は高く、品質も不安定。国として早急に整備すべき</li> <li>・全国民が無料で利用できる通信インフラを整備し、低所得層へは機器を提供すべき</li> <li>・収入減で新しいパソコンを買うことができず、何とかやり過ごしたが、必要な家庭には Wi-Fi 環境整備やパソコン購入等の支援がほしい</li> <li>・Wi-Fi は原則どこでも無料で開放すべきだ</li> </ul>
---	---

#### ⑪ 福祉・介護

- ・高齢者や障害者など社会的弱者の生活を支える施設・サービスの重要性を再認識したとの意見が多かった。そうした業務に従事する人々の待遇改善を求める声も多く聞かれた。
- ・社会が危機に瀕すると見過ごされがちになる、高齢者の孤立をいかにして防ぐか、存在が見えにくい社会的弱者の声をいかにして拾い上げるかといった課題を指摘する意見もあった。

#### 〈主な回答〉

<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉施設に社会が頼りすぎている</li> <li>・介護や保育に携わっている人も大変な思いをしたはずだが、医療従事者に比べてほとんど話題にならなかった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者など、困窮したと声すら上げられない人には何の手当もなかったのではないか</li> <li>・高齢者が孤立してしまうので、それを救うのにどうすればよいのが疑問</li> </ul>
--	--

<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉施設がないと社会は回らないのに給料が安い。エッセンシャルワーカーと呼ばれる職種の人の待遇を改善する必要がある</li> <li>・誰でも皆年を取るということを自覚すべき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常時の高齢弱者の生活支援は大変難しい課題と感じた・元気な高齢者が介護の必要な高齢者を援助する仕組みがあれば地域が活性化するのでは</li> </ul>
---	--

⑫ 情報公開

- ・種々雑多な情報が溢れる中で、行政による正確で迅速な情報発信に期待する意見が多かった。議事録の公開など意思決定過程の透明化を徹底することも、行政への信頼感を高める上で重要である。

〈主な回答〉

<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報が溢れていて、何が正しいのか判断が難しい。行政の役割は正確な情報を発信することだ</li> <li>・透明性の確保を徹底することが大切</li> <li>・感染者情報の公開が不十分。市民に正しい情報を伝えるより個人情報保護の方が大切なのか。中途半端な情報は不安を増長するだけだ</li> <li>・情報は市民の財産。後で検証できるように都合の悪い部分も隠さず記録を公開してほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SNS やマスコミの不安を煽る報道に対抗するためにも、行政による正確な情報発信が大事</li> <li>・首長の発信力が重要。原稿を読むような感じではなく、心に響くコメントを聞きたい</li> <li>・他の自治体を批判することはやめてほしい</li> <li>・曖昧な言葉をなくす努力をしてほしい</li> <li>・カタカナ語が多くわかりにくかった</li> <li>・年配者にもわかりやすく伝えてほしい</li> </ul>
--	---

⑬ その他

- ・移動・交通、遊び、まちづくり、住環境など社会の様々な側面について幅広い意見が寄せられた。
- ・人と人との結びつきが一層希薄になっていくことを懸念する声がある一方で、様々なツールを駆使して新しい形でコミュニケーションを取れるようにしていくことが重要との意見もあった。

〈主な回答〉

<p>(移動・交通)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通機関の混雑を緩和する対策が重要</li> <li>・自転車、バイクなど3密にならない移動手段の普及を考えるべき</li> </ul> <p>(遊び)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの人が集まるイベントは減っていくだろう</li> <li>・外でするスポーツはそこまで控える必要はない</li> <li>・密にならない遊び方を考えていく必要がある</li> </ul> <p>(社会構造)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症とつきあっていく社会構造の構築が必要</li> <li>・普段から厳しい状況にある経済的弱者が一番被害を受けた。不平等の本格的な是正が必要</li> </ul> <p>(まちづくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・働く場所の自由度が高まれば、昼間地域にいる人が増えて地域が活性化するのではないか</li> <li>・地域で助け合う「小さな公共」が求められている</li> </ul>	<p>(コミュニティ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会の会合もオンラインでできるはず</li> <li>・距離を取りつつもコミュニケーションの取れる環境を公私ともに作り上げる必要がある</li> </ul> <p>(家族関係)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一緒に時間が増えてやりくいこともあったが、協力してやっていくしかない</li> <li>・家事を分担することが大切</li> </ul> <p>(住環境)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭で快適に過ごせるようにすることが大事</li> <li>・ゆったり、広々とした住環境にシフトしていく</li> <li>・仕事がなくなると住居を失うことのないように</li> </ul> <p>(人間関係)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人との関係を切ってしまうような様々なツールでコミュニケーションできるようになること</li> <li>・社会全体で関係性の再構築を考えるべき時だ</li> </ul>
---	---

### 3 その他考えたこと、感じたこと

#### (1) 全体

～「Build Back Better」の未来の実現、情報リテラシーとエンパシーの涵養を～

- ・660件の回答があり頻出語句を分類すると、「感染」が99回、「コロナ」が96回、「情報」が84回など以下表の通りである。各人が危機意識を持って情報を正しく判断する必要性やこれを機会によりよい社会とすること、他人を思いやる教育への意見が聞かれた。
- ・今後の社会のあり方として、「生活を取り戻す・以前の状態に戻る」のではなく、「新しい価値観につなげる・新しい未来を目指す」といった声があった。
- ・情報リテラシーを身につけることの重要性について多数の意見があった。今回は未知のウイルスとの遭遇であり、リスクの詳細について不明な点が多く不安を感じた人が多かった。またトイレトペーパーなど特定商品の在庫に関するデマによって実際に在庫切れが発生するなど、社会の不安要因の一つともなった。情報の真偽を見極めるリテラシーの重要性を指摘する声が多かった。
- ・テレビで積極的に情報を発信する大阪に比べ、兵庫の情報発信が弱く、報道の専門官を置くなどの対応が必要といった声も聞かれた。
- ・弱い立場の人への想像力の欠如を挙げる声も多かった。シングルマザー、障害者、音楽等の芸術関係者などへの支援不足、感染者や医療関係者への誹謗中傷、ガイドラインに沿った営業を行っている店舗への張り紙行為（自粛警察）などが散見されたことに触れつつ、思いやりの心を持てる教育に力を入れるべきとの意見が寄せられた。

#### (2) 主な回答と頻出語句

##### 〈主な回答〉

<ul style="list-style-type: none"><li>・今までの生活を取り戻すのではなく、新しい価値観につながる機会になるという希望はある。新しいライフスタイルを模索する必要がある</li><li>・よく「以前の状態に戻る」という言葉を聞くが後ろ向きの印象。状況は常に変わるものなので戻るのではなく新しい未来を目指すべき</li><li>・電車に乗り仕事へ行きショッピングや外食等を行う普通の生活がこんなに脆いものだと思わなかった。ワクチンができるまでは怯えながら過ごしていかなければならないのか</li><li>・早くワクチンが開発され終息してほしい。人とのコミュニケーションが取りにくく寂しい</li><li>・大変な経験だったが今回の危機で見えてきた問題を未来の子供たちのために糧としたい</li><li>・医療従事者への差別など考えられないことばかり起きている。自由を履き違えた末路。責任の回避ばかり考える人たちが日本を作った結果。国民も責任転嫁せず意志を表明すべき</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・どこまで恐れるか、対策するのか、あふれる情報の中で未だに何が正解なのか悩む</li><li>・膨大な情報が取得できる環境になっているが、情報リテラシーが低いために必要な情報を取得できない、または誤った情報を取得してしまう層がかなり存在していると感じた</li><li>・ネットによる情報の多さは、人を惑わせることが多いことを再認識した。正確な情報が何なのか見分ける力も必要</li><li>・何が大切で何が不要か、自己判断の大切さ、自分の身は自分で守る大切さを感じた</li><li>・情報化社会で情報を早く入手できる世の中になったことは良いことだが間違った情報や一部を誇張した情報など、自分で何が正確で正しいものなのか見極めていく必要があると痛感</li><li>・もし自分や家族がコロナかもしれないと思っても、誹謗中傷が怖く、重症にならないと名乗り出たり、検査を受けたりできないと思った</li></ul>
--	--

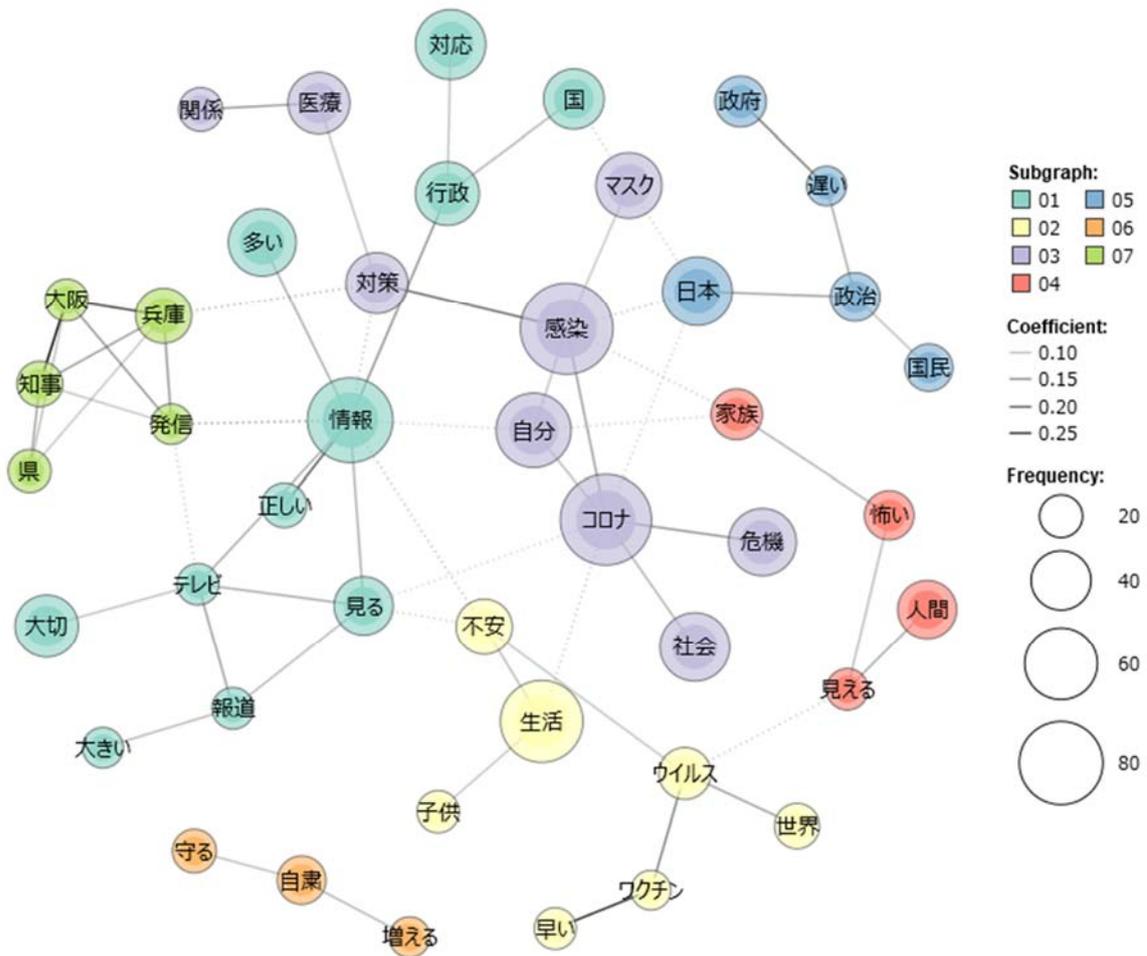
<ul style="list-style-type: none"> <li>・弱者から切り捨てられるのがよく分かった。「家に居ろ」と簡単に言うが、シングルマザーはどうなるのか。障害のある方はどうなのか。音楽や芸術関係の方などの収入をどう支えるのか</li> <li>・多数派は正しいという安直な発想の人が多い</li> <li>・いつ自分がコロナにかかってもおかしくないの で、やりたいことを後回しにせずに、元気なうちにやっておこうと思った</li> <li>・リモートワークが広がれば都市部の人口集中を 地方に分散し満員電車の通勤、地方の過疎化等の 解決になる</li> <li>・せわしなく仕事に人間関係に家庭に忙殺されて きたが、コロナ禍で多くの活動は不必要であり、 削減できると感じた</li> <li>・自治会の活動が何もできなくなったが、それもい いかと思った。引き継いだ伝統などにとられると 若い人たちには負担かもしれない</li> <li>・子どもの公園やプールなどは開放してあげても 良いのでは</li> <li>・ルール通り営業している店舗に貼紙などをする 自粛警察と言われる人がいる。子どもたちは浅は かな行動に呆れているのではないか。一人一人が 思いやりの心を持てる教育に力を入れるべき</li> <li>・子どもを連れて散歩したり、公園で遊んだりする 親をよく見るようになった。これはいいことだと 思う。子育てのいい機会である</li> <li>・情報過多の中、何を信じ、何を信ぶかを自分で考 えることのできる人間でありたいと思った</li> <li>・トイレトペーパーの買いだめなどデマや誤報 に惑わされるのが一番ストレス。信頼できる情報 が正しく伝わるネットワークが必要</li> <li>・感染リスクを抑えるためにキャッシュレスを進 めるべき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報が錯綜していたため、どの情報が妥当である か個人の判断が求められる一方、知識のない人は 情報に振り回される結果となった。状況が悪化し ていれば、誤った情報による暴動や事件が起きて も不思議ではなかった</li> <li>・まずワクチンの開発を</li> <li>・若者向けに予防の啓発をもっとやってほしい</li> <li>・感染者への非難・中傷が酷かった</li> <li>・コロナに感染した方を差別することなくどのよ うに支えられるかを皆で考えたい</li> <li>・第2波に向けてどういう対応をするのか、どんな 準備を県としてするのか県民に明確に</li> <li>・兵庫県は広いので被害の少ない所まで自粛を強 要するのは間違っていたと思う</li> <li>・店舗を全て閉めるべきではない。経済が停滞し、 弱者により多くの負担が回ってきている</li> <li>・東京一極集中はリスクが大きく地方へ分散すべ き。60%もリモートワークできるなら本社ビルは 半分でよく、東京に置く必要はない</li> <li>・今のままテレワークにすると人により業務の量 に偏りが生じるので要改善。共働き家庭だと子供 を見るのが非常に困難、預けるのも不安なので 対策が必要</li> <li>・介護、保育、運送などに関わる人に対してもっと感 謝の気持ちを持ち、待遇もよくすべき</li> <li>・大阪のように全国の手本となるよう、知事にはリ ーダーシップを発揮してほしい</li> <li>・大阪府知事を見習ってテレビで積極的な情報発 信をすべき</li> <li>・兵庫県はまともなコロナ対策を行っていると思 うが、声の大きな自治体ばかりがマスコミに取り 上げられてしまった。専門の報道官を置くなどの 対応が必要では</li> </ul>
---	---

〈主な頻出語句〉

順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数
1	感染	99	6	対応	56
2	コロナ	96	7	社会	55
3	情報	84	8	日本	55
4	生活	78	9	危機	52
5	自分	64	10	多い	52

### (3) 頻出語句の関係性

- ・単語のつながりを分類すると、感染症対策や正確な情報の把握に対する言及が多い。行政情報の発信の不十分さ、国・自治体の対応の遅さや判断の是非に対する声も多く寄せられた。
- ・「感染」は「マスク」「コロナ」と関連しており、「ワクチン」は「早い」「ウイルス」と関連している。感染症対策への関心の高さ、ワクチンの早期開発への期待の強さが窺われる。
- ・「情報」は「多い」「正しい」「行政」と関連している。今回の事態でテレビ報道や行政情報等により多くの情報が提供されたが、情報過多となって正しい情報を見極められなくなった県民の姿が浮かび上がる。



(参考) 調査票

臨時アンケート調査

令和2年6月 兵庫県

皆様には、新型コロナウイルス感染症の拡大防止にご協力を賜り、御礼申し上げます。現在、感染の拡大は食い止められていますが、今後再流行の懸念があるため、新型コロナウイルスの感染拡大を予防する「ひょうごスタイル」(3密の回避、身体的距離の確保、在宅勤務の推進など)にご協力のほど、よろしく申し上げます。

県では、今回の事態を通じた皆様の生活の変化などを調査し、今後、「ポストコロナ社会」(コロナ収束後の社会)のあり方を考える貴重な資料として活用してまいりたいと考えています。

そこで、県民モニターの皆様には、この「コロナ危機」の中で考えたこと、感じたことを、率直なご意見として県へお寄せいただきたく、自由記述を中心とする臨時のアンケート調査を実施することとしました。お忙しいところ大変恐縮ですが、ご協力よろしく願いいたします。

[生活への影響]

問1 今回の事態は、あなたの生活にどの程度変化を与えましたか。また、具体的にどのような変化がありましたか。

あなたの生活にとって悪い影響が大きい場合は「マイナスの変化」、良い影響(例えば、未来に希望がもてるような)が大きい場合は「プラスの変化」として、その変化の大きさを一つ選択いただき、自由記述欄に具体的な状況をご記入ください。

(1-1 あなたの日常生活(買い物、子どもの世話、通院など))

- マイナスに大きく変化した
- マイナスに少し変化した
- ほとんど変化しなかった
- プラスに少し変化した
- プラスに大きく変化した

(自由記述欄：具体的な状況についてご記入ください。) 最大 300 字

(1-2 あなたとあなたの家族の関係) ※ 同居家族だけでなく、離れて暮らす家族も含む

- マイナスに大きく変化した
- マイナスに少し変化した
- ほとんど変化しなかった
- プラスに少し変化した
- プラスに大きく変化した

(自由記述欄：具体的な状況についてご記入ください。) 最大 300 字

1-3、1-4はお勤めの方や自営業（農林水産業を含む）の方にお聞きします。

（1-3 あなたのお勤め先、自営業の状況）

- マイナスに大きく変化した
- マイナスに少し変化した
- ほとんど変化しなかった
- プラスに少し変化した
- プラスに大きく変化した

（自由記述欄：具体的な状況についてご記入ください。）最大 300 字

（1-4 あなたの日々の働き方）

- マイナスに大きく変化した
- マイナスに少し変化した
- ほとんど変化しなかった
- プラスに少し変化した
- プラスに大きく変化した

（自由記述欄：具体的な状況についてご記入ください。）最大 300 字

（1-5 あなたの時間の過ごし方（お仕事以外の活動、余暇等））

- マイナスに大きく変化した
- マイナスに少し変化した
- ほとんど変化しなかった
- プラスに少し変化した
- プラスに大きく変化した

（自由記述欄：具体的な状況についてご記入ください。）最大 300 字

（1-6 その他）

その他、特に変化した事柄があれば、その変化について自由にお書きください。（最大 300 字）

[社会のあり方]

問 2-1 今回の事態を受けて、社会のあり方は変わるべきだと思いますか。（一つ選択）

- 大いに変わるべき
- 多少は変わるべき
- どちらともいえない
- 特に変わる必要はない

問2-2 問2-1で「大いに変わるべき」「多少は変わるべき」「どちらともいえない」と回答された方にお伺いします。社会のあり方として、特に変わる必要があると思うものは何ですか。具体的に①何について(項目)、②どのような方向に変わるべき(具体的な方向性)とお考えですか。3つまでお答えください。

**【項目例】**

「働き方」「産業構造」「教育」「感染症対策」「医療」「福祉」「ライフスタイル」「価値観」「移動・交通」「まちづくり」「人口集中」「子育て」「行政」「環境」「遊び」「情報通信」「家族・コミュニティ」等

(1つ目)

①項目(最大10字)

②具体的な方向性(最大300字)

(2つ目)

①項目(最大10字)

②具体的な方向性(最大300字)

(3つ目)

①項目(最大10字)

②具体的な方向性(最大300字)

問3 その他、このコロナ危機の中で考えたこと、感じたことを自由にお書きください。(最大300字)

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。